令和 6年 5月31日開催
第603回 理 事 会可決
第183回 評議員会承認

学校法人福岡学園　令和５年度事業報告の概要

１．教育の質の向上

（１）歯科大学は、口腔医学教育の実践を検証するため、学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づいたアセスメントプランの作成を開始したほか、歯学モデルコアカリキュラム令和 4 年度改訂版に基づく診療参加型臨床実習の充実及び内容等を検証する組織を立ち上げ、課題等の抽出を行いました。また、国家試験への強化策として、各学年で実施する総合学力試験において学生の学力到達度を把握させる目的で試験結果のフィードバック方法を充実させました。歯学研究科では、医科科目の講義・実習を必修科目として開講し、医科疾患の診断・治療の臨床演習を実施しました。第 117 回歯科医師国家試験は、新卒・既卒含め 187 名が受験し、85 名が合格しました。

（２）看護大学は、内部質保証活動を実践しながら学修成果を評価するために、令和 5 年度はアセスメント・ポリシーを整備するための各評価基準の作成を開始しました。また、教育教材のデジタル化に向けた取り組みを開始するとともに、実習施設でもデジタル教材の使用が可能か環境調査をしています。看護学研究科では、歯科衛生士の受け入れに対応して 3 ポリシーを見直しました。第 113 回看護師国家試験は、97 名が受験し、93 名が合格、第 110 回保健師国家試験は新卒 10 名全員が合格しました。

（３）短期大学は、自己点検・評価委員会の下に検討部会を設置し、3 ポリシーの見直し及びカリキュラムマップ作成の検討を行い、素案を作成しました。国家試験対策として口腔保健テーマ別講義や補習を実施するとともに、9 回実施した臨床テストの個人成績表を学生に配付し、自己の弱みを認識させました。第 33 回歯科衛生士国家試験は、新卒 52 名が受験し、51 名が合格しました。

２．研究の質の向上

（１）口腔医学研究センターは、第 5 回のシンポジウムを開催し、口腔医学プラットフォームから選ばれた代表者 7 名が研究成果を発表したほか、令和 5 年の業績を取り纏めてホームページで学内外に公表しました。

（２）看護大学は、第 43 回日本看護科学学会交流集会にて、札幌市立大学、熊本大学、聖路加国際大学と共同で口腔ケア OSCE に関して発表し、論文を投稿しました。

（３）短期大学は、私立大学研究ブランディング事業の継続事業として実施している地域住民を対象とした全身と口腔機能の測定を実施したほか、毎月当番制で抄読会（英文）を実施し、自己研究の論文化への意識を高めました。

（４）専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は、歯科大学は 88 編（うち欧文 63 編）、看護大学は 47 編（うち欧文 13 編）、短期大学は 32 編（うち欧文 6 編）になりました。

（５）研究活動における不正防止の確立に向け「公的研究費等にかかるコンプライアンス教育講習会」及び「研究倫理教育 FD 講演会」を開催し、学園 3 大学の教職員及び大学院生を含め対象者全員が受講しました。

３．学生の受け入れ・支援

（１）学園 3 大学は、大学教育・高等学校教育の活性化等を目的として、福岡市立福翔高等学校、博多工業高等学校、福岡女子高等学校、福岡西陵高等学校の 4 校と「高大連携に関する協定」を締結し、各種取り組みを開始しました。また、筑紫女学園高等学校との高大連携では、医療関係職の職業教育並びに養成課程に関する教育の支援として事前講義に 40 名を、学園 3 大学を訪問するコースに 63 名を受け入れました。

（２）歯科大学は、他大学の特待生制度及び本学特待生の出願、入学、修学の状況を調査し、改善点を検討して令和 6 年度入学者選抜に反映させました。また、中間試験の成績が不振の学生について、学生本人及び保護者と助言教員が面談を行い、学修方法の見直し等を指導したほか、保健管理センターと連携し、疾病等が原因で修学が困難な学生の早期把握と対策の検討を目的に、3 か月に 1 度程度の情報交換を行いました。

（３）看護大学は、オープンキャンパスを 3 回実施したほか、進学説明会及び出張講義、進学ガイダンスに随時参加し、本学の特色である口腔医学を取り入れた看護学や well-being の考え方を説明しました。また、学友会との連携では学生企画を導入したほか、ホームページの広報内容を刷新し、大学紹介のビデオを新たに作成しました。

（４）短期大学は、一般選抜の選択科目に「英語」と「数学」を追加する等選抜方法の見直しを行い効果がみられました。また、教員会で学業・精神面で支援の必要な学生の情報交換を密に行い退学抑止に努めたほか、経済的に困難な学生の相談を受け、学生納付金納付猶予等の支援を適宜行いました。

（５）令和 6 年度入学者数は、歯科大学口腔歯学部 98 名・同大学院 9 名、看護大学看護学部 114 名・同大学院 7 名、短期大学歯科衛生学科 61 名・同専攻科 23 名でした。また、短期大学の介護福祉士実務者学校（通信課程）は 3 名が修了し、来年 1 月の国家試験受験を予定しています。

４．社会との連携・貢献

（１）地域連携センターは、連携団体と協力し、地域カフェ「かふぇもりのいえ」を毎月 1 回実施したほか、他大学、歯科医師会等と連携して歯科相談やシンポジウムの開催、ボランティア学生の派遣の連絡調整等を行いました。

（２）令和 6 年 1 月に発生した能登半島地震に対し、福岡県歯科医師会の要請により歯科医師、歯科衛生士各 2 名が、福岡県災害福祉支援ネットワーク協議会の要請により理学療法士 1 名が被災地での支援活動に当たりました。

（３）医科歯科総合病院は、新人看護師、中堅看護師の教育を継続し、看護の質の維持、向上を図ったほか、医事業務の質及び患者サービスの向上を目的として、専門知識と経験を有する事業者を一般競争入札で選定しました。また、健診センターでは、身体健診受診者ほぼ全員に「歯科相談」をサービスとして実施し、国民皆歯科健診施行時に向けた体制を準備しています。外来患者数は 1 日平均 783.9 人、入院患者数は 30.1 人でした。

（４）介護老人保健施設は、在宅復帰・在宅療養支援機能加算に係る評価ポイントを 60 ポイント以上維持するとともに、週 3 回以上のリハビリを実施し、6 月以降は在宅強化型施設として算定できるようになりました。また、地域住民への啓発として、田村公民館での介護情報講座、医科歯科総合病院での介護相談会等の活動を実施しました。入所者数は 1 日平均 40.2 人、通所利用者数は 1 日平均 23.6 人でした。

５．組織運営及び財務・施設整備

（１）令和 5 年 7 月に次期役員・評議員を選任し、8 月には水田祥代氏が理事長に、田口智章氏が常務理事に再任されました。なお、新任の理事・評議員に江里能成氏、新任の監事に工藤重之氏が選任されました。また、令和 6 年 2 月から歯科大学長に髙橋裕氏が再任されました。

（２）新キャンパス整備計画については、体育館を解体したほか、体育館近傍の埋蔵文化財調査及び汚染土壌対策を完了させました。また、令和 6 年 2 月に起工式を執り行い 1 期工事（新本館）を開始しました。

（３）短期大学は、厚生労働省補助事業「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」に採択され、42,978,000 円の補助金交付が決定しました。

（４）病院では、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価を受審し、基準を達成し認定を受けました。また、今後の特定共同指導、適時調査の受審に向け、診療録記載管理委員会を設置しました。

（５）看護大学では教員を雇用する際に、人件費比率に基づいたポイント制により透明性の高い人員配置を行いました。また、事務の効率化に向けて、看護大学事務課を 1 課体制に再編するとともに、内部監査室に専任職員を配置しました。

令和 6年 5月31日開催
第603回 理 事 会可決
第183回 評議員会承認

学校法人福岡学園　令和５年度事業報告書

Ⅰ．法人の概要

法人の名称：学校法人福岡学園
住所：〒814-0193 福岡県福岡市早良区田村二丁目 15 番 1 号
電話：092－801－0411
URL：https://www.fdcnet.ac.jp

１．法人の目的

学校法人福岡学園は、昭和 48 年に大阪以西で唯一の私立歯科大学として「福岡歯科大学」を開設し、現在、口腔医学の学問体系の確立・育成と全身の疾患が理解できる医療人の育成に向けて、特色ある教育研究を行っている。平成 25 年 4 月からは、口腔医学に関する活動をアピールするとともに、歯学教育や歯科医療の実態に即したものとするため、学部学科の名称を「口腔歯学部・口腔歯学科」に変更した。また、地域の医療センターとしての「医科歯科総合病院」を有する。この他、全国初の「口腔保健学士」認定専攻科を持つ「福岡医療短期大学」、全国に先駆けて設置した高齢者福祉のための「介護老人保健施設 サンシャインシティ」を併設している。さらに、平成 29 年に「福岡看護大学」を開学させたほか、女性の就業環境整備のため、同年、「ぺんぎん保育園」を開設。大学院教育について、昭和 60 年に歯科大学大学院（博士課程）を開学させたほか、令和 3 年 4 月に看護大学大学院（修士課程）を新たに設置し、更なる教育研究のフィールドを広げている。このように、本学園は、一貫して教養と良識を備えた有能な歯科医師、看護師、保健師、歯科衛生士の養成及び教育・研究者の育成に努め、医療・保健・福祉の総合学園として、教育・研究の質の向上及び地域医療・福祉への貢献を目指している。

【建学の精神】

福岡歯科大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、歯学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科医師を育成することを目的とし、社会福祉に貢献すると共に歯科医学の進展に寄与することを使命とする。

福岡看護大学：教育基本法及び学校教育法に基づき、看護学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な看護専門職を育成することを目的とし、社会福祉に貢献するとともに、看護学の進展に寄与することを使命とする。

福岡医療短期大学：歯科衛生学に関する専門の学術を教授研究し、教養と良識を備えた有能な歯科衛生士を養成し、保健福祉に貢献すると共に、歯科衛生学の進展に寄与する。

２．沿革

昭和47年 7月	学校法人福岡歯科学園寄附行為認可、福岡歯科大学設置認可
昭和48年 2月	福岡歯科大学附属病院開設
昭和48年 4月	福岡歯科大学開学
昭和55年11月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校設置認可
昭和56年 4月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校開校
昭和60年 3月	福岡歯科大学大学院設置認可
昭和60年 4月	福岡歯科大学大学院開学

平成 8年10月	福岡歯科大学附属歯科衛生専門学校の福岡医療福祉専門学校への校名変更及び同校の社会福祉専門課程設置認可
平成 8年12月	福岡医療短期大学設置認可
平成 9年 3月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程募集停止
平成 9年 4月	福岡医療短期大学開学、福岡医療福祉専門学校開校
平成11年 2月	福岡医療福祉専門学校歯科衛生専門課程廃止認可
平成11年 4月	福岡医療短期大学専攻科歯科衛生学専攻開設
平成11年12月	福岡医療短期大学保健福祉学科設置認可
平成12年 1月	福岡医療福祉専門学校社会福祉専門課程募集停止
平成12年 4月	福岡医療短期大学保健福祉学科開設
平成14年 1月	福岡医療福祉専門学校廃止認可
平成14年 8月	介護老人保健施設（サンシャイン シティ）開設
平成15年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科3年制へ移行
平成17年 1月	病院名を福岡歯科大学医科歯科総合病院に改称
平成20年 4月	福岡医療短期大学歯科衛生学科の専攻科が大学評価・学位授与機構の認可を得て、学士（口腔保健学）の専攻科として認定
平成23年 6月	法人名を福岡学園に変更認可
平成23年11月	福岡歯科大学口腔医療センター開設認可
平成23年12月	福岡歯科大学口腔医療センターを開設
平成25年 4月	福岡歯科大学の学部・学科名を口腔歯学部口腔歯学科に変更
平成28年 8月	福岡看護大学設置認可
平成29年 4月	福岡看護大学開学
平成29年 8月	ぺんぎん保育園開園
平成31年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科令和2年度から学生募集停止決定
令和元年 9月	福岡歯科大学収容定員変更認可(令和2年度から入学定員96名)
令和 2年 9月	福岡歯科大学医科歯科総合病院新病院開院
令和 2年10月	福岡看護大学大学院設置認可
令和 3年 3月	福岡医療短期大学保健福祉学科廃止
令和 3年 4月	福岡看護大学大学院開学
令和 4年 7月	50周年記念講堂竣工
令和 4年 7月	学校法人福岡学園・福岡歯科大学創立50周年記念式典挙行
令和 5年 4月	福岡歯科大学口腔医療センターを本院に移転
令和 6年 2月	新キャンパス整備計画1期工事（新本館）着工

３．設置する学校・学部・学科等、その入学定員、学生数等の状況

（表１）　　（令和５年５月１日現在）

学　校　名	学部学科等名	開設年度	修業年限(年)	入学定員(人)	収容定員(人)	在学者数(人)
福岡歯科大学 (学長　髙橋　裕)	口腔歯学部 口腔歯学科	昭和４８年	6	96	624	520
	大学院歯学研究科	昭和６０年	4	18	72	37
福岡看護大学 (学長　樗木　晶子)	看護学部 看護学科	平成２９年	4	100	400	410
	大学院看護学研究科	令和３年	2	5	10	12
福岡医療短期大学 (学長　田口　智章)	歯科衛生学科	平成　９年	3	80	240	183
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	平成１１年	1	20	20	25

施　設　名	区　分	開設年度	定員(人)	1日当り利用平均(人)	年間利用延数(人)
介護老人保健施設 サンシャインシティ (施設長　松元幸一郎)	入　所	平成 14 年	85	40.2	14,704
	通　所	平成 14 年	40	23.6	6,919

4．出願者、入学者及び収容定員充足率等の状況

（表２）

学　校　名	学部学科等名	令和５年度入学者				令和６年度入学者			
		出願者	受験者	合格者	入学者	出願者	受験者	合格者	入学者
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	174	167	151	70	231	210	188	98
	大学院歯学研究科	6	6	6	6	9	9	9	9
福岡看護大学	看護学部 看護学科	289	270	250	109	349	336	251	114
	大学院看護学研究科	6	6	6	5	7	7	7	7
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	66	66	66	64	65	65	65	61
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	30	30	28	25	33	32	25	23

（表３）　　（毎年度５月１日現在）

学　校　名	学部学科等名	年度別収容定員充足率				
		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
福岡歯科大学	口腔歯学部 口腔歯学科	0.8	0.8	0.8	0.8	0.8
	大学院歯学研究科	0.5	0.6	0.5	0.5	0.5
福岡看護大学	看護学部 看護学科	1.1	1.1	1.0	1.0	1.1
	大学院看護学研究科	―	―	1.0	1.2	1.0
福岡医療短期大学	歯科衛生学科	0.8	0.8	0.7	0.7	0.8
	専攻科 口腔保健衛生学専攻	1.2	1.2	1.2	1.1	1.3

5．教職員数

（表４）　　教　員　数　　（令和５年５月１日現在）

	教授等	准教授	講師	助教	助手	その他	小計	客員教授	客員准教授	臨床教授	臨床准教授	非常勤講師	合計
歯科大学	41	18	41	53	―	―	153	13	1	26	5	50	248
看護大学	13	4	6	9	11	―	43	―	―	―	―	8	51
短期大学	7	0	6	2	3	1	19	―	―	―	―	19	38
老　健	1	―	―	―	―	―	1	―	―	―	―	―	1
合　計	62	22	53	64	14	1	216	13	1	26	5	77	338

（表５）　　職　員　数　　（令和５年５月１日現在）

	事務職員	技術職員	技能職員	補助職員等	医療職員等	介護職員等	医員	合計
歯科大学	47	5	2	27	―	―	―	81
看護大学	11	―	―	5	―	―	―	16
短期大学	4	―	―	―	―	―	―	4
病　院	21	―	―	3	135	―	68	227
老　健	3	―	―	―	19	40	―	62
保健管理センター開設準備室	―	―	―	―	3	―	―	3
合　計	86	5	2	35	157	40	68	393

※非常勤職員を含む。

６．役員・評議員・役職教職員

（令和５年５月１日現在）

（表６）　理事（定数 10～17 人）・監事（定数 2～4 人）・顧問

役職名	氏名	就任年月日	常勤･非常勤の別
理 事 長	水　田　祥　代	平成 22 年　6 月 3 日	常　勤
常務理事	田　口　智　章	令和　2 年　4 月 1 日	常　勤
理　　事	髙　橋　　裕	平成 30 年　2 月 1 日	常　勤
理　　事	樗　木　晶　子	令和　2 年　8 月 3 日	常　勤
理　　事	瓦　林　達比古	平成 27 年 10 月 1 日	非常勤
理　　事	宮　口　　嚴	平成 17 年　8 月 3 日	非常勤
理　　事	石　橋　慶　憲	令和　5 年　4 月 1 日	常　勤
理　　事	坂　上　竜　資	令和　4 年　4 月 1 日	常　勤
理　　事	古谷野　　潔	平成 26 年　8 月 3 日	非常勤
理　　事	大　山　　茂	令和　元年 10 月 1 日	非常勤
理　　事	海老井　悦　子	平成 27 年 12 月 1 日	非常勤
監　　事	藤　田　和　子	平成 29 年　4 月 1 日	非常勤
監　　事	西　方　和　久	平成 25 年　1 月 1 日	非常勤
顧　　問	木　下　　明	平成 31 年　4 月 1 日	非常勤
病院顧問	阿　南　　壽	令和　4 年　4 月 1 日	常　勤
情報顧問	藤　村　直　美	令和　4 年　4 月 1 日	非常勤

（表７）　評議員（定数 24～35 人）

役職名	氏名	就任年月日
評 議 員	水　田　祥　代	平成 22 年　6 月 3 日
評 議 員	田　口　智　章	平成 29 年　8 月 3 日
評 議 員	髙　橋　　裕	平成 17 年　8 月 3 日
評 議 員	樗　木　晶　子	平成 29 年　8 月 3 日
評 議 員	坂　上　竜　資	令和　4 年　4 月 1 日
評 議 員	石　橋　慶　憲	平成 21 年 6 月 26 日
評 議 員	藤　木　　明	令和　5 年　4 月 1 日
評 議 員	松　添　裕　晃	令和　元年　6 月 1 日
評 議 員	横大路　智　視	令和　3 年　1 月 1 日
評 議 員	都　築　　尊	令和　3 年　4 月 1 日
評 議 員	古　村　南　夫	令和　4 年　4 月 1 日

役職名	氏名	就任年月日
評 議 員	樋 口 勝 規	平成 28 年 7 月 19 日
評 議 員	中 畑 高 子	令和 2 年 4 月 1 日
評 議 員	平 田 雅 人	平成 30 年 2 月 1 日
評 議 員	朔 啓二郎	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	古谷野 潔	平成 26 年 8 月 3 日
評 議 員	瓦 林 達比古	平成 27 年 10 月 1 日
評 議 員	海老井 悦 子	平成 27 年 12 月 1 日
評 議 員	大 山 茂	令和 元年 10 月 1 日
評 議 員	前 原 喜 彦	平成 17 年 8 月 3 日
評 議 員	平 田 泰 彦	令和 2 年 8 月 3 日
評 議 員	神 田 晋 爾	平成 29 年 8 月 3 日
評 議 員	宮 口 嚴	平成 11 年 8 月 3 日
評 議 員	吉 永 修	令和 2 年 4 月 1 日
評 議 員	中 四 良	令和 2 年 8 月 3 日

※本法人は、役員（理事、監事）及び評議員について、役員の健全な経営判断及び本法人の更なる発展をサポートするため、令和 3 年度から継続して日本私立大学協会の役員賠償責任保険（対象:理事、監事、評議員　保険期間:1 年間　総支払限度額:１億円）に加入し、役員の損害賠償リスクを補償しています。

（表８）　役職教職員等

【福岡歯科大学】

役職名	氏名
学 長	髙 橋 裕
医科歯科総合病院長	坂 上 竜 資
学 生 部 長	稲 井 哲一朗
情 報 図 書 館 長	大 星 博 明
口腔・歯学部門長	城 戸 寛 史
全身管理・医歯学部門長	池 邉 哲 郎
社会・基礎医歯学部門長	日 髙 真 純
医科歯科総合病院副病院長	都 築 尊
医科歯科総合病院副病院長	古 村 南 夫
医科歯科総合病院副病院長	樋 口 勝 規
医科歯科総合病院副病院長	中 畑 高 子

【福岡看護大学】

役職名	氏名
学長・研究科長	樗 木 晶 子
学 部 長	宮 園 真 美
学 生 部 長	中 島 富有子
情 報 図 書 館 長	岡 田 賢 司
基礎･基礎看護部門長	青 木 久 恵
健康支援看護部門長	藤 岡 奈 美
地域･在宅看護部門長	角 森 輝 美
教育支援・教学 IR 室長	荒 川 満 枝
大学院副研究科長	飯 野 英 親

【福岡医療短期大学】

役職名	氏名
学 長	田 口 智 章
学 科 長	松 尾 忠 行

【介護老人保健施設】

役職名	氏名
施 設 長	松 元 幸一郎

【事務局】

役職名	氏名
事 務 局 長	石 橋 慶 憲

Ⅱ．事業の概要

１．教育の質の向上

１）口腔医学教育の実践

歯科大学では、“口腔”を身体の一つの臓器と位置づけ、現在の歯学教育の高度専門化とともに一般医学教育を充実させた「口腔医学」を確立・育成することが、超高齢社会を支える歯科医学・歯科医療にとって非常に重要であるとの考えから、「歯学から口腔医学へ」をモットーに、口腔医学教育・口腔医療の確立・育成のフロントランナーとして、その実践に努めてきた。

また、口腔医学を推進させるために平成 27 年度に創設された「田中健藏基金」による第 8 回目の事業として、短期大学矯正実習用器具購入費 490 千円の支援を実施した。

○歯科大学

（１）口腔歯学部

口腔医学教育の実践を検証するため学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）に基づいたアセスメントプランを令和5年度より作成を開始した。令和6年度内で完成したアセスメントプランを基に各種委員会レベルで自己点検した取り組み状況を自己点検・評価委員会が点検・評価し、助言等を行うことで口腔医学教育の実践を検証するサイクルの確立を目指している。

また将来の分野別認証評価の受審に向け、歯学モデルコアカリキュラム令和4年度改訂版に基づく診療参加型臨床実習の充実及び内容等を検証する組織を立ち上げ、課題等の抽出を行うことで口腔医学教育の実践、検証を行った。

新型コロナウイルス及びインフルエンザ等の感染症拡大期においても診療参加型臨床実習が実施可能となるよう登院実習生全員を毎朝、教職員が検温を行い病院での感染防止並びに学生の体調管理の徹底を図った。

歯学系診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験については、12月5日、6日に学外試験監督者の下で実施され、第5学年全員が合格した。

共用試験の公的化に向けた準備として公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構が主催するOSCEの評価者認定講習会を本学にて1月27日、28日の2日間行った。

（２）歯学研究科

口腔医学に沿って総合医学基本テーマを充実させるため、引き続き医科科目の講義・実習を必修科目として開講し、医科疾患の診断・治療の臨床演習を実施した。また、研究科運営委員会を中心にコースワーク・リサーチワークの円滑な実施体制の検証をシラバス上にて確認を行う体制を今年度も継続した。学位申請の必須要件としている中間発表会においても、各専門領域の教員から口腔医学に関連した口頭試問や研究アドバイスを行うことで大学院生の口腔医学への理解を更に深めることができた。

○看護大学

（１）看護学部

口腔を起点とした全身の健康支援が可能な看護実践能力を修得することをDPやCPに明示した教育を行った。本学の特徴である口腔医学教育に関する学修成果の評価は重要課題であり、大学組織として、内部質保証活動を実践しながら、この学修成果を評価するために、令和5年度はアセスメント・ポリシーを整備するための各評価基準の作成を開始した。

また、学園3大学で協働して、共通基礎科目や医療系科目などの共同科目を整備するため、企画案を作成中である。令和5年度は薬物乱用に関し著名な外部講師を招聘し3大学参加可能な講座を開講した。

その他、口腔ケア看護教育モデルの充実に向けて、機能的口腔ケアを含む口腔ケア教育に関連する科目の教授を継続しており、今後教育の改善策について2年計画で検討するため、令和5年度には、授業評価や委員会において評価を行った。

（２）看護学研究科

口腔医学に関する科目を充実させ、歯科衛生士を学生に迎えるなど、口腔医学教育の実践を行っており、学部同様学修成果の評価は重要課題である。アセスメント・ポリシーを令和5年度に検討し、制定した。また、歯科衛生士入学者の受け入れに対応して、教育3ポリシーを見直した。

歯科衛生士入学者の学修が深まるよう準備した新規科目「口腔病態生理特論」と「看護・口腔医療連携特論」については、科目別授業評価を実施した。

○短期大学

（１）歯科衛生学科

① 学修成果の評価の方針（アセスメント・ポリシー）等に基づく内部質保証活動の実践

学修成果の可視化に係る調査を教育支援・教学IR室が中心となって行い、抽出された課題について当該委員会にて改善可能な事項を決定し、次年度の講義内容に反映させることを決定

した。
② 多職種連携に関する学生の意識向上を目指した3大学共同の口腔医学教育の検討
3大学合同で実施可能な科目について検討し、今年度は看護大学と合同で口腔ケアに関する実習を実施した。
③ 超高齢社会に対応でき、指導的役割を果たす歯科衛生士の育成
介護職員初任者研修修了資格を歯科衛生学科2年次全員が取得した。また、すべてのライフステージに対応できる歯科衛生士の育成を目指し、専攻科の口腔ケアのセミナー実施対象者を高齢者と施設職員から高齢者、高校生、乳幼児及びその保育士へ幅を広げた。

２）教養と良識を兼ね備えた有能な医療人の育成

学園3大学では、教員の意欲向上並びに教育の質向上及び改善を図ることを目的に制定した「最優秀教育改善賞要項」に基づき、令和5年度についても教育活動において顕著な成果を挙げ、他の教員の模範となる教員を選出した。

〇歯科大学

ディプロマ・ポリシーで定められた医療人として必要なプロフェッショナリズム・コミュニケーション能力について、当該能力を養成できるように授業が行われているかの点検・検証をIR運営委員会及び学務委員会にて行い、現行のカリキュラムにおいて、各学年で当該能力を獲得する機会が設けられていることが確認できた。

また現行のシラバスや授業評価アンケートを活用した検証・評価を実施し、改善点を次年度シラバスに反映できるようデータの提示を行った。歯学研究科の令和5年度の学位取得状況は、課程博士6名、論文博士1名であった。歯学研究科から大学院卒後助教として2名を大学教員として採用し、教育・研究・診療分野で活躍できる有能な医療人を輩出した。

〇看護大学

（１）高度な看護実践能力の育成

令和4年度から開始した新カリキュラムの2年目となり、昨年に引き続いて、現行カリキュラムと新カリキュラムの併行に伴う学生の履修計画等の課題に関する対策を、教務委員会を中心に徹底した。学生の履修状況や出席状況、成績評価や授業アンケート結果を注視しながら、カリキュラムを運営した。

また、教育教材のデジタル化に向けて計画中であり取り組みを始めた。実習でもデジタル教材使用に向け、実習施設の環境調査を開始した。

臨地実習に関しては、新型コロナウイルス感染症に伴う実習施設の事情等にも柔軟に対応し、学内実習を余儀なくされる状況もあったが、昨年度に引き続き教育用電子カルテ教材の活用、模擬事例によるシミュレーション、ビデオ教材などの工夫とともに、看護技術教育も併行することで、臨地に引けを取らないよう配慮した。実習科目によっては、実習施設等の協力を得て、オンラインを活用し臨地実習指導者等を招聘した実習ができた。

卒業生には、4年間のディプロマ・ポリシーの達成度に関する可視化したディプロマサプリメントを卒業証書と共に配付した。

（２）実習体制の整備

大学と実習施設の連携に向け、「実習協議会」はオンラインで開催し、「実習委員会」、「実習指導者会議」を定期的に開催した。実習委員会と学生支援委員会が連携し、新型コロナウイルス感染予防のガイドラインを含め大学の感染予防対策を実習施設に提示し、臨地実習の調整を行った。臨地実習終了後は、実習指導者会議を実施し、その教育成果を実習施設にフィードバックし常に協議を行う体制を形成することで、臨地実習を継続できるよう取り組んだ。

（３）教育力向上のためのFD

DPを満たす人材の育成について、学生の自己評価に基づいて達成状況を可視化し、計画的にFD研修を実施するために、卒後1年3ヶ月（2期生）及び卒業生（4期生）に対して、現在のDPの達成状況を調査、報告した。

令和5年度は教員の教育力向上のため、年間計12回のFD・SDを実施し（学園主催FD・SD含）各研修における成果を教育に活かした。

（４）看護学研究科の教育

教員補充のためにAC教員審査を受け、充分な準備を経て2名の教授と2名の准教授が〇合を獲得し、教員体制を整えた。

また、歯科衛生士の受験の受け入れに伴って修正した新カリキュラムを開始し、学生は問題なく履修計画を遂行できた。

今後の継続した学士相当の能力を有する歯科衛生士の入学受入れを見込み、3ポリシーを修正した。特にカリキュラム・ポリシーについては、令和3年度に受けた認証評価の指摘事項にも対応した修正を行った。

〇短期大学

（１）教育目的・目標を踏まえた学修成果の明確化

自己点検・評価委員会の下に設置した検討部会により3つのポリシー見直し及びカリキュラムマップ作成の検討を行い、素案を作成した。

（２）教員の教育力向上

体系的なFD・SD計画に基づき、学内で9件開催したほか、学園開催12件も含めて、各FD・SDに参加対象教職員が出席し、教育力向上に努めた。また、医科歯科総合病院歯科衛生士部主催の実習指導者研修会に参加し、実習指導能力の向上に努めた。

３）国家試験への取り組み強化

○歯科大学

低学年教育の充実と自主学修の促進を国家試験への取り組み強化策とし、各学年で実施する総合学力試験において学生の学力到達度を把握させる目的で試験結果のフィードバック方法を充実させた。その結果については助言教員にも共有し、学修指導に活用した。第6学年に対しては、模擬試験の分析結果に基づき各科目担当教員を集め、補強講義のための参考データを提示したほか、模擬試験直後に学生自身が弱点を把握し克服するために自修可能な時間を設定するとともに質問対応可能となるよう教員がスタンバイする体制を作った。

また、学修習慣や学修方法確立の支援として第1学年の学生2～3名ごとに1名の助教をサポーターとして配置する制度を継続して実施した。これらをTKG（積上げ・繰り返し・学習）サポート制度と称して低学年から学修習慣が定着するよう学生を支援した。サポーター以外にも第1学年から第3学年まで助言教員が学生の学修の進捗状況を確認し、学修習慣の定着をチェックすることで学習方法の確立を支援した。

第117回歯科医師国家試験は、新卒・既卒含め187名が受験し、85名が合格、合格率45.5%（全国平均66.1%）であった。

○看護大学

第1学年においてはグループ学習及び学習ノート作成を通じて生理学・解剖学の知識定着を図った。第2学年はサドンデス方式で模擬試験を実施し必修問題の学修強化を図った。第3学年では、国試問題集を演習・実習などで活用するなど看護実践との関連で知識強化を図った。第4学年では、国家試験全員合格を目指し、定期的に模擬試験を実施するとともに、その結果を共同分析し低迷者対策として業者や教員による補講、個別対策などを行った。

第113回看護師国家試験は、97名が受験し、93名が合格、合格率95.9%（全国平均93.2%）であった。既卒者2名も合格した。第110回保健師国家試験は、新卒10名が受験し、10名全員が合格し、合格率100%（全国平均97.7%）であった。

またCBT・OSCEの導入に向けた外部講師の招聘や研修を実施した。

○短期大学

卒業試験・国家試験受験者全員の合格を目指して、国家試験対策授業である口腔保健テーマ別講義や補習の実施、また、国家試験対策として計9回実施した臨床テストの個人成績表を配付し、自己の弱みを認識させる等対策を講じた結果、55名中52名が卒業試験に合格した。卒業決定後も成績不振者に対し、国家試験までの期間、更なる学力向上へ向けて補習を行った結果、第33回歯科衛生士国家試験は、新卒受験者52名中51名が合格し、合格率98.1%（全国合格率92.4%）であった。

４）短大の4年制化の検討

○短期大学

4年制化を見据え、専攻科の講義に医学的要素も含めたより専門的な内容の講義を組み立て実施した。

また、全国歯科衛生士教育協議会が実施している「専任教員認定歯科衛生士」の資格取得に向けた専任教員講習会Ⅰ～Ⅴの各レベルに1名ずつ計2名が参加し、教育研究能力の向上に努めた。

２．研究の質の向上

１）口腔医学を基盤とする研究の促進

○口腔医学研究センター

先進的かつ独自性の高い研究活動を一層推進・拡充し、ブランディング強化を図るため、「常態系」、「病態系」、「再生系」、「臨床歯学系」、「医学系」の5つの口腔医学プラットホーム（PF）を構築し、学園3大学から33名の研究者を選抜し、それぞれを適切なPFに配した。各PFでは口腔の健康は全身の健康を守るという「口腔医学」のコンセプトに基づいた共通目標のもと、独自の先駆的研究に取り組むとともに相互の連携研究にも取り組んだ。

12月8日に第5回口腔医学研究センターシンポジウムを開催し、4つの口腔医学プラットフォームから選ばれた代表者計7名が研究成果の発表を行った。また、特別講演として本センターに着任した教授による講演を行った。

その他、本センターを活用した業績を取りまとめて、ホームページにて学内外へ公表した。

○歯科大学

歯学研究科において口腔医学研究を促進さ

せるため大学院生へ口腔医学研究センターシンポジウムへの積極的な参画を促した結果、6名の大学院生が参加し、活発な議論がなされた。

○看護大学

口腔を基盤とした保健・医療・福祉に関する研究の活性化を組織的に検討するために、看護系学会において他大学との共同発表を企画して、第43回日本看護科学学会交流集会にて、札幌市立大学、熊本大学、聖路加国際大学と共同で口腔ケアOSCEに関して発表し、論文投稿した。

また、令和5年5月には、インドネシア大学の歯科医師マンダサリ先生、福岡歯科大学米田教授とともに看護大にて国際シンポジウムを開催した。

令和5年7月には、「看護に活かせる口腔教育研修（基礎編）」を開催した。

○短期大学

口腔マイクロバイオーム研究が、次年度科研費に採択され、本格的に研究を開始する。

○アニマルセンター

令和5年度の動物実験計画承認書の申請件数は5件で、動物種の導入はマウス（SPF含む）が4，025匹、ラットが50匹、カエルが30匹を導入し、昨年度と比較してマウスの導入数が増加し、研究活動の活性化が見られた。

また、アニマルセンター使用者講習会は、更新者（4年毎）17名、新規登録者11名が受講した。

○歯科大学・看護大学・短期大学

教育研究経費等として、歯科大学には学長重点配分経費10,000千円、病院長重点配分経費5,000千円、学術振興基金事業経費19,500千円を、看護大学には学長重点配分経費2,000千円、共同研究費3,000千円を、短期大学には学長重点配分経費1,500千円、共同研究費500千円を配分した。

令和5年の研究業績は、歯科大学専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文、症例報告等）は88編、うち欧文は63編であった。

看護大学の専任教員の総論文数（著書、総説、原著論文等）は47編、うち欧文は13編であった。

短期大学専任教員の総論文数（著書、原著論文）は32編、うち欧文は6編であった。**（別表1）**

２）研究ブランドの構築、研究の活性化

○歯科大学・看護大学・短期大学

科研費の獲得状況は、**別表2**（歯科大学）、**別表3**（看護大学）、**別表4**（短期大学）のとおり。歯科大学では令和4年度と比して、採択件数70件から64件と6件減となったが、採択金額は10,650千円増加した。看護大学では、採択件数22件から16件と6件減となり、採択金額は4,800千円減少した。短期大学では、採択件数は5件から7件と2件増となり、採択金額は500千円増となった。

科研費獲得に向け、令和6年度の科研費公募時期に合わせて、恒常的に研究助成金を獲得している教員によるFD「科研費獲得にかかるFD」を7月5日に実施するとともに研究計画書のブラッシュアップを実施するなど、全学的に外部資金獲得マインドの向上を図った。

○看護大学

大学の研究ブランドの確立と定着を目指して、看護学・口腔医学共同研究ワーキンググループを中心組織として「看護分野における口腔ケア・口腔ケア教育」に関する臨床看護研究を継続的に推進した。一連の成果は、日本看護科学学会において、口腔ケアに関するテーマの交流集会に6年連続で採択された。

科研費では、令和5年度の助成金保有率は、51.6％で、口腔関連の研究テーマでブランド力の獲得を推進した。

また、研究活動成果の収集方法をシステム化し、研究業績集を研究支援室及び情報図書委員会が中心となって作成することとしており、この準備として、Research mapから業績を抽出するためのシステムを構築し、マニュアルを作成した。また、1月には当該システムの説明会を実施した。

○短期大学

（１）私立大学研究ブランディング事業の成果を発展させた短大独自ブランドの構築

私立大学研究ブランディング事業の継続事業として実施している地域住民を対象とした全身と口腔機能の測定を実施したほか、毎月当番制で抄読会（英文）を実施し、自己研究の論文化への意識を高めた。

（２）歯科衛生士教育に関する研究の推進

学会発表前に予演会を実施し、発表内容の充実化を図るとともに、発表した内容の論文化を推進した。

３）健全な研究活動の推進

○歯科大学・看護大学・短期大学

学園3大学の公的研究費不正防止計画に基づき、研究費の不正使用防止にかかる「公的研究費等にかかるコンプライアンス教育講習会」を7月～9月にビデオ講演で実施し、学園3大学の教職員及び大学院生を含んだ受講対象者の420

名全員が受講した。また、研究活動における不正行為防止にかかるFD「研究倫理教育FD講演会」についても7月～9月にビデオ講演で実施し受講対象者370名全員が受講した。

5月に新規の研究者を対象に「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」に基づき、「人を対象とする研究の倫理及び研究の実施に関する講習会」を開催し、合計146名が参加した。なお、その後受講を希望した研究者及び大学院生等へビデオ講習会を開催し、令和5年度は計219名が受講した。

○看護大学

個人情報等の情報管理のレベルから研究倫理に関する学部・大学院教育を強化するために、倫理教育を含む計12回のFD・SD研修を計画的に開催した。

また、研究倫理を遵守し倫理教育を推進するために学部講義と大学院の倫理教育研修の受講を徹底した。

３．学生の受け入れ・支援

１）教育現場活性化のための定員確保

（１）福岡市立高等学校（4校）との高大連携

学園3大学は、大学教育・高等学校教育の活性化等を目的として、福岡市立福翔高等学校、博多工業高等学校、福岡女子高等学校、福岡西陵高等学校の4校と「高大連携に関する協定」を締結し、高大連携に係る取り組みを開始した。

（２）高校等との連携推進

教育に係る交流・連携を図ることで、双方の教育研究力の向上を目指し、同時に地域貢献や課題解決を目的として、連携協定を締結していた学園3大学と筑紫女学園高等学校との取り組みとして、医療関係職の職業教育並びに養成課程に関する教育の支援について、事前講義に40名、学園3大学を訪問するコースに63名を受け入れた。

看護大学では、依頼のあった高校及び業者主催の出張講義・進学ガイダンスに随時参加した。また、筑紫女学園との高大連携を継続し、35名授業体験に受け入れた。更に福岡市立高校4校との活動を開始し、6月には3日間かけて延べ152名の高校生をキャンパスツアーや授業体験に受け入れた。

看護大学と短期大学は、共同実施の高校教員対象合同入試説明会及び研修会を6月に1回実施し、21校の参加を得た。

短期大学では、6月に連携協定を締結した福岡女子高等学校、福岡西陵高等学校の生徒への学園ツアーを開催したほか、福岡女子高等学校1・2年生約600名を対象に専攻科生が歯科保健指導のセミナーを開催した。

○歯科大学

（１）口腔歯学部

多様化する受験生ニーズに対応した選抜方法の改革の一環として、他大学の特待生制度及び本学特待生の出願状況、入学状況、修学状況を調査し、改善点を検討し、令和6年度入学者選抜へ反映させた。

受験者増加に向けて教育内容や大学の特色等の情報発信を強化する目的として、オープンキャンパスの宣伝 YouTube 動画等にも本学教育の特徴である学生と教員の距離が近い点をアピールする等広く広報を行った。口腔歯学部の志願者数は 231 名で、入学者数は 98 名であった。

（２）歯学研究科

志願者増加のため研修医の事前アンケートで希望の多かった教室の教授と大学院生の講演を実施し、大学院の周知・勧誘を行った。入学者数は 9 名であった。

○看護大学

（１）看護学部

入試委員会を中心に学生募集のあり方を検討し、オープンキャンパスを3回実施したほか、九州内で実施された進学説明会への参加(5回)を行い、依頼のあった高校及び業者主催の出張講義・進学ガイダンスに随時参加した。なお、教職員による高校訪問も1回実施した。

また、学内外に対し魅力ある教育体制や学生支援に関する大学の強みをアピールする方策を検討・試行し、ブランド化を進めるために、学生や高校生のアンケートなど各種データから強みを見極め、アピールする情報を大学のホームページやSNSで高校生向け・学生向けに作成し、適宜発信した。

その他、意欲のある学生確保に向け、入学者選抜方法の検証及び改善が必要と考え、選抜方法の妥当性についての分析を行うとともに、本学の特色である口腔医学を取り入れた看護学やwell-beingの考え方について高校生や教員、保護者に説明した。志願者数は昨年比20.8%増の349名、競争倍率は昨年比0.2増の1.3倍となり、114名(募集定員100名)が入学した。

（２）看護学研究科

令和3年4月の開学以降、定員は充足しており、令和5年3月に1期生5名に引き続き令和6年3月

には4名が修了した。令和6年度入試は、4期生となる7名が入学した。

〇短期大学

近年の歯科衛生士養成校の状況を鑑み、令和5年4月より男女共学化をスタートしたが、令和5年度は男子学生の入学者は無かった。

また、学校推薦型選抜に離島推薦を追加、一般選抜の選択科目に「英語」と「数学」を追加する等選抜方法を見直し、入試を実施した結果、一般選抜では9名中4名が「数学」、2名が「英語」を選択し、見直しの効果はみられたが、定員80名に対し入学者61名となり、定員充足には及ばなかった。専攻科は、定員20名を上回り、学外入学者3名を含む23名の入学者を確保した。

２）学生募集のための広報手段の拡充

〇歯科大学

新入生アンケート結果や入学者状況を分析の上、高校訪問、同窓訪問、広告戦略の検証を行った。

〇看護大学

高校生等に効果的広報活動を行うため、新入生などを対象とした調査・分析から、広報活動を見直し、その結果を受け、学友会と連携した学生主体のオープンキャンパスを実施した。

また、学友会と連携し学生企画の導入やホームページを見直し、内容の整理とともに大学紹介のビデオを新たに作成し、卒業生のメッセージなどの広報内容を刷新する取り組みを行った。

〇短期大学

（１） 大学の強みや魅力を最大限に伝えられる広報戦略の検討

福岡市立4校との高大連携や福岡講倫館高校への出前授業など高校１、2年生対象の啓蒙活動を実施した。また、新入生やオープンキャンパス参加者のアンケート結果に基づき、次年度大学案内の内容を検討した。

（２） ホームページや SNS の発信内容の充実

専攻科生によるInstagramの記事の作成等、高校生目線に寄せた広報活動を実施した結果、Instagramのフォロワーの数が増加した。

３）学生支援体制の整備

（１）情報図書館の整備等

昨年度に引き続き蔵書情報の整備の一環として、図書システムにより、3分の1にあたる約3.5万冊の保存書庫にある製本雑誌以外の図書と学園3大学研究室の点検整備を実施したほか、狭隘化した歯科大学の書架のスペース確保と有効活用のため、オンラインで閲覧可能な製本和雑誌を中心に約4千冊の除籍を行った。

また、図書館活性化のため、利用者に親しんでもらえるマスコットキャラクターを募集し決定した。

歯科大学では、外国語雑誌について、現行のタイトル購入以外に、Pay Per View方式について一部導入するとともに、医中誌Webについて利用が多いため、同時アクセス4から制限なしに変更した。

その他、いつでもどこでも閲覧できる電子図書を収集するため、歯科大学では歯科の治療技術を解説するシリーズを中心に45冊、看護大学では看護系や学生でも読みやすい医学系を中心に29冊の受け入れを行った。

（２）ICTを利活用する学修環境整備

Officeソフトを無償で提供できソフトウェアの不正利用防止が図れるMicrosoft 365について学生を対象にサービス開始した。

〇歯科大学

（１）保健管理センター

保健管理センターと連携し、疾病等が原因で修学が困難な学生の早期把握と対策の検討を行う目的でセンターと3か月に1度程度情報交換を行い学務委員会内の学生支援WGで内容を共有した。

大学院生のメンタルケアについては、センターと情報を共有する体制を構築したほか、新任の大学院指導教員を対象としたFD研修会を5月に実施した。

（２）学修支援

成績不振等、特に指導が必要な学生には個別の面談や相談を多数実施した。定期試験前に実施する中間試験の成績が不振の学生については、学生本人及び保護者と助言教員が面談を行い、学修方法の見直し等を指導した。

また、定期試験・追再試験の終了後や年度末の時期を中心に、学生の修学に関して学生や保護者からの相談に学生部長、学生部次長、助言教員が個別に丁寧に対応した。その他、「障害学生支援規則」を制定し、合理的配慮提供の義務化に向けた対応を行った。

（３）講義録画システムの活用

私立学校施設整備費補助金の助成を受け、口腔医学教育の推進事業として設置されたマルチメディア装置を引き続き活用し、授業内容を復習する等学生の自学自習を促進した。

（４）経済的支援

日本学生支援機構や本学学生共済会の各種奨学金周知と手続きの支援を適宜実施した。

また、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、各種特待生制度を実施した。更に昨年に引き続き文部科学省「学生等の学びを継続するための緊急給付金」に申請を行ったほか、経済的に困難な学生に対して適切に相談を受け、授業料減免や学生納付金納付猶予等の支援を行った。

（５）学年別説明・保護者面談会の実施

毎年前期定期試験終了後に保護者と助言教員が面談を行い、学修支援の内容や大学の現状を説明することで大学・学生・保護者の三者のコミュニケーションの強化を図っており、令和5年度は8月6日に実施し、約300名の保護者と面談を行った。面談に参加できなかった保護者に対してWEBや電話での面談も随時対応を行った。

（６）福岡歯科大学学生後援会・学生共済会・同窓会との連携

① 学生後援会は、年２回の理事会･評議員会合同会議を対面と Zoom によるハイブリッドにて開催し、学生支援について検討を行った。

② 学生共済会は、７月及び３月に理事会・代議員会合同会議を開催し、７月は前年度の事業に関する決算等について審議を行った。

③ 同窓会については、同窓生のご子息、ご息女対象オープンキャンパスを ６ 月に実施するとともに、初めての開催となるホームカミングデーを同日実施した。

○看護大学

（１）学修支援

4月、7月、3月に、チューター教員による定期面談を実施し、成績不振の学生に対しては、教学IR室の情報分析を基に、チューター制度を活用し、学生の学修環境の整備を行い、主体的な学修支援を実施した。修学等に問題を抱える学生に対しては、保護者も交えた三者面談を含め個別的な支援を行った。また、保健管理センターと連携し、「障害学生支援規則」に従い、障害のある学生に対し、修学上の不利益が生じないよう倫理的配慮を実施した。

（２）学内活動の支援

学生主体の学生交流会や芸術祭開催の支援を行い、学生同士が協力し支え合うことができる教育を行った。

（３）キャリア支援

助産師や保健師の仕事内容、大学院進学等についてのガイダンス、教員による相談、4年次生から下級生への就職･進学への姿勢や学習方法等について、経験談を基に情報伝達交流会を実施した。就職支援として、就職合同説明会を7月31日に実施した。

（４）学生の経済支援の充実

昨年度に引き続き各種奨学金の周知とその申請手続きの支援等を適宜実施した。

また、本学独自の看護職育成奨学金制度の周知を行い、個別に学生相談を実施した。

学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生 22 名に対して、各種特待生制度を実施した。

（５）福岡看護大学学友会･学生後援会との連携

学長、学生部長等が出席し、５月に学友会総会を開催し、学友会の役割と令和５年度予算案等について協議した。８ 月と ３ 月には、学長、学部長、学生部長等が出席のもと、学生後援会理事会において学生の学修や成長、学修成果、各種活動について情報を共有するとともに、学生の支援のために実施する諸事業について報告し、令和５年度予算に係る事項や令和５年度決算及び令和６年度予算等について協議した。

○短期大学

（１）成績不振者や精神的不調の学生に対する支援体制の強化

教員会で学業･精神面で支援の必要な学生の情報共有を密に行い、助言教員、専攻科のTA等による学生支援体制を強化し、退学抑止に努めた。また、次年度の合理的配慮提供の義務化に際し、「障害学生支援規則」を制定した。

（２）経済的支援

例年どおり各種奨学金の案内及び手続きの支援や経済的に困難な学生の相談を受け、学生納付金納付猶予等の支援を適宜行ったほか、学業成績が特に優秀で品行方正かつ健康な学生に対して、特別奨学生制度を実施した。また、業者との連携協定による学校推薦型選抜離島推薦入学者対象の修学支援制度及び次年度より実施する社会人選抜入学者対象の修学支援制度の新設を決定した。

（３）福岡医療短期大学学友会・学生後援会・同窓会との連携

学長、学科長等が出席し、７月に学友会総会を開催し、学友会の事業計画と役割、令和４年度決算案･令和５年度予算案等について協議した。

学生後援会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、理事会等の会議については、今年度も書面での開催とした。

同窓会については、昨年同様、連携可能な事項等について協議した。また、４月にホームページを開設し、情報を掲載した。

（４）介護福祉士実務者学校（通信課程）

４ 月期に２名入学し、令和４年度 10 月期入学の１名と併せて３名が修了し、来年１月の国

家試験を受験予定である。

４）文部科学省「高等教育の修学支援新制度（高等教育無償化）」の対象校に選定

８月に、文部科学省が実施する意欲ある子どもたちの進学を支援するため、授業料・入学金の免除または減額と、返還を要しない給付型奨学金の大幅拡充による高等教育の修学支援制度（高等教育無償化）の対象校として、歯科大学、看護大学、短期大学の３大学が引き続き選定された。

４．社会との連携・貢献

１）安全で良質なサービスの提供

〇医科歯科総合病院

これまでの新人看護師、中堅看護師の教育を継続し、看護の質の維持、向上を図ったほか、医事業務の質及び患者サービスの向上を目的として、専門知識と経験を有する事業者を一般競争入札にて選定した。

また、地域医療の充実に貢献するため、「連携の会」を継続し、紹介医療機関や近隣医療機関との連携を強化し、共通の課題に対し情報交換を行った。

（１）患者数等

令和５年４月より、博多駅前で診療を行っていた「口腔医療センター」を本院に統合し診療を開始した。

外来患者数は、歯科は対前年 94.9％の 139,741 人、医科は対前年 98.2％の 60,533 人であった。入院患者数は、歯科は対前年 102.6％の 4,486 人、医科は対前年 87.7％の 6,544 人であった。健診受診者は、対前年 135.1％の 8,708 人であった。

診療収入は、歯科は対前年 88.6％の 1,339,574 千円、医科は対前年 108.7％の 964,877 千円であった。健診収入は対前年 126.1％の 32,199 千円であった。病院収入は対前年 96.4％の 2,336,650 千円であった。

外来患者（R4 歯科には口腔医療センター実績を含む）

・歯科	139,741 人［546.9 人/日］	
	R4：147,325 人	
・医科	60,533 人［236.9 人/日］	
	R4： 61,627 人	
外来計	200,274 人［783.9 人/日］	
	R4：208,952 人	
入院患者		
・歯科	4,486 人［12.3 人/日］	
	R4： 4,374 人	
・医科	6,544 人［17.9 人/日］	
	R4： 7,461 人	
入院計	11,030 人［30.1 人/日］	
	R4： 11,835 人	
健診受診者		
・一般健診	2,399 人	R4：2,239 人
・高校歯科健診	3,300 人	R4：2,107 人
・教職員健診	1,498 人	R4：1,462 人
・学生健診	9 人	R4： 12 人
健診計	7,206 人	R4：5,820 人
・歯科相談	1,502 人	R4： 624 人
延受診者数	8,708 人	R4：6,444 人

病院収入（R4 歯科には口腔医療センター実績を含む）

・歯科	1,339,574 千円
	R4：1,511,709 千円
・医科	964,877 千円
	R4： 887,815 千円
診療収入	2,304,451 千円
	R4：2,399,524 千円
健診収入	32,199 千円
	R4： 25,527 千円
病院収入	2,336,650 千円
	R4：2,425,051 千円

（２）歯科医師臨床研修

令和５年度歯科医師臨床研修は、プログラムⅠ（従前の複合型）並びにプログラムⅡ（単独型）により実施した。新型コロナウイルス感染症の影響もなく予定通りの研修を実施し、研修歯科医 45 名全員（プログラムⅠ臨床研修歯科医 27 名、プログラムⅡ臨床研修歯科医 18 名）に対し、令和６年３月 22 日に修了証を授与した。

〇老健施設

（１）利用者数

施設の独立した採算を目指して、令和５年度は施設活性化検討委員会を 11 回開催し、利用者増、業務改善を図った。在宅復帰・在宅療養支援機能加算に係る評価ポイントを 60 ポイント以上維持するとともに、週３回以上のリハビリを実施し、５月に福岡市へ変更届出書を提出のうえ ６ 月以降は在宅強化型施設の基本額で請求を開始した。令和 5 年度入所 1 日平均は 40.2 人（令和４年度：57.4 人）で、前年度比 17.2 人減、通所利用者は、令和 5 年度 1 日平均は 23.6 人（令和４年度：21.3 人）で、前年度比 2.3 人増となった。

サンシャインシティ施設利用者数等は表 9

のとおり。

表 9　サンシャインシティ施設利用者数等

利用者(定員)	年間利用延数(人)	稼働率(%)	対前年比	1日当平均(人)
入所者(85人)	14,704	47.3	20.2%減	40.2
通　所(40人)	6,919	59.0	5.7%増	23.6

介護収入は 292,722 千円（前年度比 66,340 千円減）であった。

（２）教育・実習施設としての活用

看護大学第 1 学年はフィールド研修、第 3 学年は見学中心の実習とし、1 学年 109 名、3 学年 94 名が実習を行った。短期大学歯科衛生学科は 68 名が実習を行った。また、法人グループ以外では、福岡大学医学部看護学科は 11 名、同医学科は 2 名、麻生医療福祉専門学校介護福祉科は 2 名、中村学園大学の大学院生は 2 名が実習を行った。また、令和 5 年度短期大学の介護職員初任者養成研修に施設介護職員を講師として派遣した。

（３）新型コロナウイルス感染対策

新型コロナウイルス感染症が 5 月に 5 類へ移行したことに伴い、感染対策として行っていた家族面会制限を緩和して、12 月 4 日以降、平日午後の時間を 10 分間で親族のみに制限しフロアでの面会を再開した。

（４）介護システムの導入

令和 4 年度福岡県 ICT 導入支援事業費補助金により導入した、無線 LAN の整備及びタブレット端末による介護システムについて、10 月以降に本格稼働した。

２）国民皆歯科健診に向けた体制の確立

〇短期大学

歯科衛生学科2年次科目「キャリアデザイン」の講師に医科歯科総合病院歯科衛生士を招くことにより登院前の意識付けを強化するとともに基礎実習の内容を充実させた。

〇医科歯科総合病院

国民皆歯科健診の目標「お口の健康から体を健康にすること、健康寿命を延ばすこと。」を示し、オーラルケアの重要性を市民に啓発した。健診センターでは、身体健診受診者ほぼ全員に「歯科相談」をサービスとして実施しており、国民皆歯科健診施行時に向けた体制を準備している。また、通常の健診業務に加えて、九州産業高校及び博多高校において高校生の集団歯科健診を行った。

３）社会貢献の推進

（１）能登半島地震への支援

令和6年1月1日に発生した能登半島地震の被災者支援として1月22日から義援金募集活動を開始し、集まった義援金は2月1日に福岡県福祉労働部福祉総務課に送金した。

また、2月12日から17日までの6日間、福岡県歯科医師会からの要請により、本学教職員(歯科医師2名、歯科衛生士2名)が能登半島へ赴き、被災地での歯科医療支援活動に当たった。さらに、3月8日から13日までの6日間福岡県災害福祉支援ネットワーク協議会からの要請により理学療法士1名が被災地での支援活動に当たった。

４）地域連携センター

本センターは、地域団体との連絡調整を行って学園全体の地域貢献の取り組みを支援してきた。令和 5 年度は、新型コロナウイルス感染症も 5 類に移行したため、対面で行ってきた活動を一部再開し、出前講座、歯科大学生の地域行事へのボランティア活動の令和 6 年度再開に向けた協議を開始した。

（１）社会貢献活動における連携団体

① 福岡学園の所属する田村校区自治協議会及び社会福祉協議会との連携活動『地域カフェ「かふぇもりのいえ」』は新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止していたが、令和 5 年 4 月から再開し、公民館、学園関連施設において毎月 1 回計 12 回（参加者 338 名、スタッフボランティア 168 名）実施した。

② 野芥校区自治協議会・早良区社会福祉協議会・福岡未来創造プラットフォームとの連携のもとでの同校区子ども食堂への歯科大学並びに看護大学の学生ボランティア派遣も昨年度に引き続き中止したが、学習支援は 12 回催行され、福岡市西部地区五大学連携及び福岡未来創造プラットフォーム共同開催参画大学の学生 50 名の派遣の連絡調整を実施した。

③ 早良区地域保健福祉課、福岡県歯科衛生士会並びに福岡市歯科医師会早良支部との学官民連携に基づく早良区オーラルフレイル予防事業では、コロナ禍でのオーラルフレイル予防を念頭において監修したパンフレットを昨年度に引き続き配布した。

④ 新型コロナウイルス感染症 5 類移行後、中村学園大学栄養クリニックを主催とする健康イベント（6 月 10 日）及び連携企業（UR 九州支社）主催子育て支援イベント（7 月 8 日）に教員を派遣し、会場の感染対策実施を助言するとともに歯科相談ブースを設けて対面相談を安全に実施した。

⑤ 福岡市歯科医師会が主催する市民向け健康イベント（「福岡市民の健康を歯と口から守る集い」(6月4日)）には、がん検診相談コーナー

及び歯と口と全身の健康よろず相談コーナーを担当し、医科歯科総合病院歯科医師3名を派遣した。また、ソラリアゼファ会場に予防歯科学分野作成のポスターを掲示した。
⑥ 七隈線沿線三大学連携において実施の中村学園大学栄養科学部大学院生の歯科大学施設利用臨地実習は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度から中止していたが、10月2日に2名の大学院生を3年ぶりに受け入れた。

（２）地域住民向け健康教育等の公開講座開催

① 三大学の公開講座は、短期大学で「歯周病が及ぼす全身への影響」、「口腔内細菌と腸内細菌の関連」、「腸内細菌叢は寿命を制御する」（令和5年10月29日、来場参加者99名、録画受講者22名）、看護大学では「健康のために、ちょっぴり改善しませんか～よく食べて、ちょっぴり動いてよく眠る：食事、体操、睡眠～」（令和5年11月3日、104名）、歯科大学では「健康寿命の延伸をめざした生活習慣予防～どんな運動が効果的～」「健康長寿を実現する運動～一緒に健康体操をしましょう～」（令和5年12月2日、参加者64名）を開催し、いずれも盛況となった。
② 大学連携で七隈線沿線三大学合同シンポジウムは「がん薬物療法の最近の進歩」、「がん発症の予防や遅延に関連する食生活とは」、「口腔がんは怖くない～早期発見、治療後のQOL向上をめざして～」（令和5年10月15日、参加者108名）を開催した。また、リカレント教育プログラム「子どもの貧困を科学する」実践編では派遣した教員1名が対面再開授業に参画した。

○歯科大学

同窓生や開業歯科医師等を対象とした生涯研修やセミナー等を開催し、口腔医療を実践できる人材の育成と最新の医療情報の発信に努めた。令和5年度は5プログラム（「摂食嚥下リハビリテーションに役立つ知識」、「歯周組織再生療法セミナー」、「スケーリング・ルートプレーニングに役立つ知識」、「睡眠時無呼吸症候群マウスピース治療実践セミナー」、「口腔インプラント初級講習会」）を開催し、67名が参加した。

○看護大学

昨年度に引き続いて、近隣の医療施設の看護師を対象として「第2回看護に活かせる口腔教育研修（基礎編）」をプログラムし、令和5年7月9日及び15日に実施した。参加者は26名で大変高い評価を獲得できた。

また、産・官・学・民の連携を基盤とした社会貢献活動を行い、活動内容についての情報整理を開始した。

○短期大学

（１）自治体や医療・保健・介護・福祉等の職能団体との連携による社会貢献活動の推進

「かふぇ もりのいえ」や高齢者向けセミナー「おしゃべりっく会」を再開し、地域住民との交流を深めるとともに、健康増進等への寄与に努めた。また、学生ボランティア用のＴシャツを作成し、ボランティア活動への積極的な参加を推進した。

（２）時代のニーズにあった公開講座及び歯科衛生士の生涯教育に資するスキルアップ講座開催の推進

「人生を変える！～腸活・口活のススメ」をテーマとした公開講座を10月29日（日）に開催し、学内外から99名が参加した。その他、11月に採択された厚生労働省補助事業「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」として開催した研修「口腔内スキャナーを使いこなそう」（3月7日）に29名、「小児からの口腔育成」（3月17日）に42名が受講した。

○医科歯科総合病院

健診事業の受診者を円滑に受け入れ、地域企業、市民への定着化を図った。

また、予防医学の推進により社会貢献に繋ぐ院内での勉強会として、藤田医科大学ばんたね病院との合同オンライン勉強会を2回実施した。

地域住民への啓発としては、「心房細動について」、「周術期の抗血栓療法」、「健康長寿の延伸をめざした生活習慣病予防～どんな運動が効果的？～」をテーマに講演会を実施した。

○老健施設

地域住民への啓発として、毎月第4月曜日の田村公民館での介護情報講座や、11月9日のこぱす2丁目での公開講座、12月以降3月まで医科歯科総合病院1階エスカレーター横で支援相談員が介護に関する介護相談会等の営業活動を実施した。

５）社会連携

（１）大学連携事業

① 「地下鉄七隈線沿線三大学連絡協議会」（中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、三大学の特色を生かした教養系共同開講授業科目「食と栄養と健康」を本学の50周年記念講堂において8月17日、18日の2日間に渡り実施し、本学からは79名の学生が受講した。また、地域の健康づくりや疾病予防等を通

じて地域社会に貢献してきた一般市民参加のウォーキングイベントは中止となったが、合同シンポジウムは 10 月 15 日に 4 年ぶりに実施した。（来聴者 108 名）
② 「西部地区五大学連携懇話会」（九州大学、西南学院大学、中村学園大学、福岡大学、福岡歯科大学）においては、引き続き単位互換科目「福博の歴史文化探訪」と五大学共同開講授業科目「博多学」を開講し、本学からは合計 65 名の学生が受講した。
③ 「福岡未来創造プラットフォーム」の 5 つの作業部会のうちの 3 つに参画し、各種取り組みを実施した。生涯学習作業部会の学び直し講座「子どもの貧困を科学する 2023 実践編」に参画した。

（２）地域包括ケアシステムの構築支援

地方自治体、医療・介護・福祉団体及び地域での多職種連携を基盤とした地域包括ケアシステムの構築のため、下記のような支援を行った。
①福岡市歯科口腔保健推進協議会に令和 4 年度に続き、オンライン開催の会議に参加した。
②早良区地域保健福祉課・福岡市歯科医師会早良支部・福岡県歯科衛生士会との学官民連携による早良区高齢者オーラルフレイル予防事業については、事業 5 年目にあたり、早良区の全 25 公民館（小学校区）でオーラルフレイル予防事業を展開する事業計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために 13 校区の高齢者 315 名への講話・口腔体操指導（本学教員監修の資料配布を含む）の実施にとどまった。

６）国際連携の推進

○歯科大学

令和元年12月から世界的に流行が始まった「新型コロナウイルス感染症」について、5月に5類へ移行したが、令和2・3・4年度に引き続き、令和5年度の姉妹校との交流は全て中止となった。令和7年度から交流を再開するために、派遣にかかる選定基準等を策定した。

○看護大学

新型コロナウイルス感染症は縮小傾向にあるものの、リヴァプール大学の研修派遣・研修受け入れ可否について、双方の国際交流の受け入れができておらず、検討を継続しつつも、海外研修派遣は適わなかった。他の交流先として、プサン大学看護学科との国際交流の締結を申し込んだが受け入れられず、他のアジア諸国の大学の情報を収集した。

○短期大学

（１）海外協定校の開拓

研修先として最適な短大、大学の候補を検討したが、決定には至らなかったため、次年度も検討を継続することとした。

（２）開発途上国等でのボランティア活動の検討

12 月に学長が医療支援を行うミャンマーに、歯科医師 1 名、病院歯科衛生士 1 名及び専攻科生 3 名で同行し、歯科保健指導等の歯科医療ボランティア活動を行う予定であったが、現地の治安状況を考慮し、学長のみの参加となった。ミャンマーでの今後の歯科医療支援活動に関して、現地の病院長や歯科教授との打ち合わせを行った。

（３）海外研修派遣

令和元年 12 月から世界的に流行が始まった「新型コロナウイルス感染症」が 5 類へ移行したことにより、海外渡航の制限が緩和され、令和 5 年度は延べ 16 名の教職員及び大学院生を海外に研修派遣した。また、第 2 種研修派遣（１月以上１年以内の国内派遣）として、大学院生１名を派遣した。**（別表 5）**

５．組織運営及び財務・施設整備

１）ガバナンス強化の推進

○法人

（１）寄附行為及び内部統制システムの整備

学校法人のガバナンス強化のため、令和5年に改正された私立学校法（施行日令和7年4月1日）に基づき、本学の寄附行為を改正するとともに内部統制システムの整備をする必要があるため、情報収集等を行った。

（２）情報公開の充実

教員の研究業績公開について、科学技術振興機構が運営する research map と連携が取れる新システムを導入することを決定した。

○看護大学

学長のリーダーシップのもと、教育活動の見える化を行い、成果を速やかに提示するため、研究チーム作りに関するFDを実施し、研究者の共同研究推進を支援した。またその発信手段として、研究業績集編纂を目指して、掲載する内容、業績集配布場所について協議した。

○短期大学

学長を中心に研究を活性化させるため、全員の科研費への申請を完了した。なお、令和5年度は、新規に基盤C2件、継続として厚労科研1件、基盤B1件、基盤C2件、萌芽1件が採択された。

２）教員組織・事務組織の再編並びに業務の見直し

○法人

（１）事務組織の再編

事務の効率化に向けて、組織規程及び事務分掌規程を改正し、令和５年６月から看護大学事務課を１課体制に再編するとともに、内部監査室に専任職員を配置した。

（２）任期制教員の再任

任期満了となる教員（歯科大学：教授６名、准教授３名、講師５名、助教６名）（看護大学：助教２名）（短期大学：教授２名）の再任について、審議の結果、申請者全員を再任した。

（３）人材育成

能力向上セミナー等の外部主催の研修に事務職員が 59 名参加した。**（別表 6）** 学内では、次年度より義務化される合理的配慮に関する知識を深めるため６月に「合理的配慮の提供義務化について」を、また新たに策定された中期構想と学園の財務状況に関する共通理解を図るため８月に「第四次中期構想と財務状況について」をテーマとして研修を行ったほか、公私ともに充実させ安定した生活を送れるよう「ワークライフマネジメント」に関する SD を７、９月に実施するなど、計画に基づき各種研修を実施した。**（別表 7）** また、西部地区五大学連携懇話会の職員研修「ビジネスマナー基礎研修」や「アサーティブコミュニケーション研修」等、他大学と連携した研修に事務職員 5 名が参加した。**（別表 8）**

（４）役員、顧問、学長、役職教員等の選任

① 理事・監事の選任

学校法人福岡学園の理事、監事、評議員の任期が令和５年８月２日付けで満了となることに伴い、第 180 回評議員会及び第 592 回理事会（令和 5 年 7 月開催）において、次期法人役員、評議員を選任した。任期は令和５年８月３日から令和 7 年度最初の定時評議員会終結の時まで。但し、工藤重之監事については令和８年８月２日まで。また、第 594 回理事会（令和５年８月開催）において、理事長に水田祥代理事長を、常務理事に田口智章氏を再任した。なお、新任理事・評議員は江里能成氏、新任監事は工藤重之氏の各１名。

② 歯科大学長の選任

令和６年１月 31 日付けで任期満了となる歯科大学長について、令和６年２月１日付けで髙橋裕氏を再任することを第 598 回理事会（令和６年１月開催）で決定した。任期は３年間、３期目。

③ 顧問の選任

第 599 回理事会（令和６年２月開催）において、令和６年４月１日付けで病院顧問に阿南壽氏を、また、情報顧問（非常勤）に藤村直美氏を再任することを決定した。任期は１年間。

④ 役職教員等の選任

ア）第 599 回理事会（令和６年２月開催）において、令和６年４月１日付けで副病院長に都築尊氏（有床義歯学分野・教授）［歯科診療部門等担当］、古村南夫氏（皮膚科学分野・教授）［医科診療部門等担当］、樋口勝規氏（客員教授）［医療安全・危機管理担当］、中畑高子氏（客員教授）［診療支援部門担当］を再任することを決定した。任期は２年間。但し、客員教授は１年間。

イ）第 761 回常任役員会（令和６年２月開催）において、令和６年４月１日付けで学生研修センター主事に松浦尚志氏（冠橋義歯学分野・教授）を選任、口腔医学研究センター長に平田雅人氏（客員教授）、アニマルセンター副長に吉永泰周氏（歯周病学分野・准教授）を再任することを決定した。任期は、松浦氏は残任期間の１年間、平田氏は１年間、吉永氏は２年間。

ウ）第 599 回理事会（令和６年２月開催）において、令和６年４月１日付けで看護大学の情報図書館長に晴佐久悟氏（基礎・専門基礎分野・教授）、地域・在宅看護部門長に中島富有子氏（地域・在宅看護部門・教授）を選任した。任期は残任期間の１年間。

エ）第 599 回理事会（令和６年２月開催）において、令和６年４月１日付けで短期大学の歯科衛生学科長［教務主任］に力丸哲也氏（歯科衛生学科・教授）を選任した。任期は３年間。

オ）第 762 回常任役員会（令和６年２月開催）において、令和６年４月１日付けで歯科大学・看護大学・短期大学保健管理センター長に得能智武氏（看護大学 基礎・専門基礎分野・教授）を選任、また、第 764 回常任役員会（令和６年３月開催）において、同４月１日付けで同副センター長に松元幸一郎氏（歯科大学 内科学分野・教授）を選任した。任期は各残任期間の１年間。

⑤ 老健施設長の選任

第 599 回理事会（令和６年２月開催）において、令和６年４月１日付けで施設長に岡田賢司氏を選任した。任期は１年間。

○看護大学

（１）労働環境

保健管理センターと共に合理的配慮について検討し、障害や個々の性別、性自認にかかわらず、お互いに自立した個性を尊重し、差別のない教育環境及び働きやすい教育環境の整備に取り組んだ。

また、長時間労働の抑制及び年次有給休暇等の取得促進に向けて、各部門長、分野長からの声掛けを行うとともに、業務内容、人員、時間を見直し、業務の簡略化・効率化を図った。

（２）人員管理

教員移動や組織改編時、教員を雇用する際には、人件費比率に基づいたポイント制により透明性の高い人員配置を行った。各分野の教育負担に応じたポイント配分は常に見直した。

また、SDGs推進室を設置し、性差や個性に対応した取り組みの検討を実施し、教員の能力に対応した職務や職責を考慮できる体制を構築した。

令和4年度文部科学省による大学院設置にかかる設置計画履行状況等調査で指摘された専任教員数の減少に関しては、新任教員等のAC審査により解決した。大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備状況調査（令和5年度）結果については、指摘事項（改善）として「経営基盤の安定確保に取り組むこと。」が付された。

（３）人材育成

科研費採択のためのFDを5月11日に実施した。また、アドバイザー制度を設置し、科研申請者にアドバイザーが支援した。

○短期大学

（１）業務負担の平準化、計画的年次休暇の取得推進

休暇取得表を事務課に掲示し、取得状況の把握を行い、全教職員が計画的に年次休暇を取得した。

（２）組織力を高めるための人材育成

体系的なFD・SD計画に基づき学内で開催する研修会のほか学園開催の研修や医科歯科総合病院歯科衛生士部主催の実習指導者研修にも積極的に参加し、教育研究、運営管理能力向上に努めた。

○医科歯科総合病院

病院事務課の業務分担を整理し、新たに総務係を設置し、病院運営の円滑化を図るとともに、超過勤務の縮減を達成した。

また、入退院支援を充実させるため、病診連携室を強化した。

○老健施設

入所者減に伴い、11月以降入所者を3階フロアに纏めて業務の標準化を推進した。また、収支改善のため、令和6年度以降のコンサルタント会社との契約が決定した。

３）第3者評価の受審

○歯科大学

第4期の基準について旧基準と新基準の対比表を作成し各担当委員会において各基準及び評価の視点に基づき点検・評価・改善・向上のPDCAサイクル確立を開始し、内部質保証にかかるPDCAサイクルの一環として大学基準協会の評価項目に則って作成した「福岡歯科大学の現状と課題‘22　改善報告書」をホームページで学内外に公開した。

また、令和8年度に受審する予定の分野別歯学教育評価に向けて自己点検・評価委員会において、受審までのスケジュール、新たな評価基準、点検評価報告書の要点等を委員会内で共有、共通の認識とし、来年度に取り組むべき点についての準備を進めた。

○看護大学

令和4年度に受審した大学基準協会の機関別認証評価における結果に基づき実施した改善等について、「福岡看護大学　点検・評価報告書‘22　改善報告書」を作成しホームページで学内外に公開したほか、自己点検・評価システムを見直し、改訂した運用マニュアルに則って内部質保証のPDCAサイクル確立を開始した。

また、自己点検・評価委員会において、今年度新たに組織された各委員会の役割を確認するとともに、PDCAサイクルに基づいた点検・評価に関する年間計画を立案し、活動を開始した。

その他、今年度新たに外部評価委員会を設置し、委員として6名の有識者に依頼した。

○短期大学

（１）認証評価結果を踏まえた内部質保証の推進

自己点検・評価委員会が中心となり、適宜各委員会を開催し、事業計画目標の達成に必要な事項について協議し、目標達成に努めた。また、例年通り10月12日に学外者を含めた自己点検・評価に関する協議会を開催し、学外者からの意見等を全教職員で共有した。

（２）2028 年度（令和 10 年度）認証評価受審

次回の認証評価受審に向けて、自己点検・評価委員会に検討部会を設置し、改善事項について検討した。

○医科歯科総合病院

医療の質改善を図るため、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価を受審、基準を達成し認定を受けた。

また、国公立大学歯学部長・歯学部附属病院長会議が実施する令和５年度「医療事故防止のための相互チェック」を受審し、本院の高い医療品質と安全性の確保について確認された。

今後の特定共同指導、適時調査の受審に向け、適切な診療録の記載を徹底することを任務とする診療録記載管理委員会を設置した。

４）財政基盤の安定化

（１）収支改善

① 福岡歯科大学

奨学寄付金 26 件（22,411 千円）、受託研究 7 件（41,469 千円）を受け入れた。

② 福岡看護大学

配分される研究費を有効に運用するために使用計画や会計報告に関する共通認識を徹底し、管理基盤の透明化を図った。共通経費も作ることができ有効な予算運用が可能となった。

教材及び消耗品管理の検討によって講義資料の膨大な印刷量を課題ととらえ、電子教科書導入によるペーパーレス化を目指して取り組んだ。

また、受託研究 3 件（4,940 千円）を受け入れた。

③ 福岡医療短期大学

収支改善の要となる入学定員充足に向けて学生募集活動に努めたが入学定員充足には至らなかった。また、学長・学科長が毎日夕方に巡回を行い、節電に努めた。

11月に厚生労働省に採択された医療施設運営費等補助金（歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業）42,978千円の助成を受けた。

④ 医科歯科総合病院

令和 5 年度も前年度に引き続き、病院経営戦略委員会、病院運営検討会において各診療科稼働額の目標達成率の確認、病院全体の収支状況の検証を行い、科長会で情報を共有した。歯科部門 13 診療科のうち 5 診療科で、医科部門 12 診療科のうち 5 診療科及び健診部門で目標を達成したが、病院全体では目標値 2,484,286 千円に対し 94%の 2,329,834 千円の実績にとどまった。

⑤ 介護老人保健施設

在宅復帰・在宅療養支援機能加算に係る評価ポイントを維持し、6 月以降は在宅強化型施設の基本額で請求を開始したが、収支改善には至らなかった。利用者増のため、田村公民館や医科歯科総合病院において介護講座・相談会等の営業活動を実施した。

（２）寄付金の受入れ

学園ホームページで卒業生、保護者を含む広く一般の方々への寄付金募集を行い、3 月末までの個人寄付は、25 件、1,383 千円となった。

個人寄付内訳（寄付目的別）は表 10 のとおり。

表 10　個人寄付内訳（寄付目的別）　（単位：千円）

区 分	歯科大	看護大	短大	病院	計
教育研究活動振興	610	100	70	0	780
教育研究環境整備	200	0	0	0	200
田中健藏基金	113	0	0	0	113
その他	0	0	0	290	290
計	923	100	70	290	1,383

この他、外郭団体の福岡歯科大学学生共済会から 61,372 千円【修学支援事業（特待生・SA）：61,262 千円、学生研修センター維持整備事業等：110 千円】の寄付があった。

５）新キャンパス整備計画の促進

〇法人

（１）新キャンパス整備計画

第 563 回理事会及び第 173 回評議員会（令和 3 年 5 月開催）の議を経て、校舎・施設・設備の刷新と教育・研究機能の向上を目的として「本館」、「体育館」、「アニマルセンター」等を順次新築するキャンパスの整備計画については、準備工事として体育館を解体したほか、体育館近傍の埋蔵文化財調査及び汚染土壌対策を完了させた。また、並行して、各種 WG（ワーキンググループ）及び PT（プロジェクトチーム）からの意見聴取等を行って基本設計・実施設計を進め、令和 6 年 2 月 3 日に起工式を執り行い 1 期工事（新本館）を開始した。なお、新本館は歯科大学に加え、短期大学の校舎として共用予定である。

（２）既存施設・設備の改修・更新

① 老健自火報受信機及び温水ボイラー更新

老健施設の老朽化対策として、5 月に自動火災報知設備を更新した。また、2 年計画でのボイラー更新にかかる 2 年目分 1 台を 6 月に更新した。

② 設備棟自火報受信機更新

新キャンパス計画に伴う体育館解体時に、近年更新した体育館用を移設・再利用し、10 月に設備棟自火報受信機を更新した。

６）その他

（１）歯科大学名誉教授称号授与

今年度は該当者がいなかった。

（２）叙勲受章

本川渉名誉教授が令和5年秋の叙勲において、教育研究功労により瑞宝小綬章を受章された。

（３）福岡学園開学記念式典の実施

学園の開学記念式典を7月27日に実施し、永年勤続表彰及び特待生表彰等を行い、学内外から約197名の参加者があった。

（４）学園全体での防災訓練の実施

10月18日に教職員131名が参加して、学園全地区隊を対象とした防災訓練（避難訓練・消火訓練・土のう作成訓練）を実施した。

なお、国土交通省作成の浸水ガイドラインにおいて病院地区が浸水エリアに指定されたため、今年度は新たに浸水対策訓練として「土のう作成・設置訓練」を実施した。

（５）エネルギー使用量の削減

エネルギー使用量は、病院－記念講堂間の熱融通が稼働を始めたことに伴い、前年度比 電気3.1％増、ガス18.7％減となり、電気とガスの使用量を原油換算しエネルギー使用量の合計で比較すると3.4％減となった。料金は、国の補助金により原料価格が減額されたことにより、平均単価が電気 2.6 円/kWh、ガス 32.4 円/㎥それぞれ下がり、電気 8.3％減、ガス39.9％減となった。

省エネに関しては、エネルギー管理委員会を毎月開催し、使用状況の把握に努めるとともに、各施設において省エネ対策を実施した。また、病院－記念講堂間熱融通にかかる運転パターン毎のデータを収集のうえエネルギー効率等を算出し、適切な運転パターンの切り替え時期等を決定した。

このほか、新本館の設備計画において省エネに資する空調熱源や照明器具等の選定、配置等を検討した。

（６）化学物質等にかかるリスクアセスメント再評価の実施依頼

化学物質リスクアセスメントの実施結果が、健康被害に影響があるリスクレベルⅢ以下の場合は、健康被害に影響の少ないⅡ以上になる様に、実験方法の再検討を依頼した。

（７）情報化組織及び管理体制の整備・充実

学内ICT環境の維持・管理のため老朽化したUTM（統合脅威管理）とプロキシサーバ及び学内バックアップサーバを計画的に更新した。

学内LANデータの学外バックアップシステムについて、学外バックアップ先を見直しクラウドストレージサービスであるAmazon S3に変更した。また、学内LANの学外接続を1Gbpsから10Gbpsへ5月に増強し、さらに障害に備えてバックアップ用の回線を新たに開設することを決定した。

（８）厚生労働省補助事業「歯科衛生士に対する復職支援・離職防止等推進事業」

標記補助金事業に11月に採択され、12月に42,978千円の補助金交付が決定した。交付決定を受けて、１月に福岡医療短期大学歯科衛生士研修支援センターを設置し、研修に必要な設備整備を行い、令和5年度研修プログラムとして「口腔内スキャナーを使いこなそう（R6.3.7開催）」及び「小児からの口腔育成～食べる力を育てる口腔機能向上プログラム～（R6.3.17開催）」を開催した。

Ⅲ．財務の概要

１．決算の概要

１）貸借対照表関係

（１）貸借対照表の状況と経年比較

令和５年度の資産の部では、第２号基本金組入れ計画の廃止に伴い、引当特定資産 80 億円を取崩し、有価証券に振替えたことにより、特定資産は 89 億 1,900 万円の減、その他の固定資産は 79 億 2,100 万円の増となった。負債の部では、病院・記念講堂建設資金の借入金 8 億 9,800 万円を返済したが、新たに本館建設資金として 15 億円を借入れたことにより、固定負債が 4 億 3,500 万円の増となった。純資産の部では、組入れ計画の廃止に伴い、第２号基本金を 80 億円取崩したことにより、繰越収支差額が 63 億 8,200 万円の増となった。

（単位：千円）

	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
固定資産	67,650,288	64,854,525	66,483,485	64,760,654	64,103,092
流動資産	1,310,793	2,040,237	1,983,074	1,800,517	2,298,601
資産の部合計	68,961,081	66,894,762	68,466,559	66,561,171	66,401,693
固定負債	7,505,384	6,783,802	8,151,459	7,259,787	7,694,790
流動負債	1,454,574	1,742,173	2,106,189	1,858,538	2,247,672
負債の部合計	8,959,958	8,525,975	10,257,648	9,118,325	9,942,462
基本金	61,211,368	58,171,191	59,161,488	60,692,306	53,327,008
繰越収支差額	△ 1,210,245	197,596	△ 952,577	△ 3,249,460	3,132,223
純資産の部合計	60,001,123	58,368,787	58,208,911	57,442,846	56,459,231
負債及び純資産の部合計	68,961,081	66,894,762	68,466,559	66,561,171	66,401,693

（２）財務比率の経年比較

比率名	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
運用資産余裕比率	576.5%	453.9%	465.2%	439.3%	403.9%
流動比率	90.1%	117.1%	94.2%	96.9%	102.3%
総負債比率	13.0%	12.7%	15.0%	13.7%	15.0%
前受金保有率	149.1%	314.8%	289.8%	261.4%	315.8%
基本金比率	90.4%	90.5%	88.4%	90.0%	87.9%
積立率	99.4%	102.2%	99.9%	94.7%	112.5%

２）資金収支計算書関係

（１）資金収支計算書の状況と経年比較

令和５年度決算における主な収入としては、学生生徒等納付金収入は福岡歯科大学及び福岡医療短期大学の在籍学生数の減により、前年度比 6,100 万円減の 31 億 4,400 万円、資産売却収入は本館建設工事費の令和７年度支払に充当する有価証券の売却などにより、前年度比 45 億 9,700 万円増の 53 億 3,000 万円、医療収入は令和５年４月から本院での診療を開始した口腔医療センターの減収などにより、前年度比 8,800 万円減の 23 億 3,700 万円となり、借入金等収入 15 億円は本館建設工事費の支払に充当するための西日本シティ銀行からの借入である。一方、主な支出では、人件費支出は昇給等による職員人件費 7,300 万円の増、退職者増による退職金 4,200 万円の増などにより、前年度比 1 億 2,900 万円増の 44 億 3,800 万円、施設関係支出は本館建設工事の着工払金 15 億 200 万円など、前年度比 8 億 3,100 万円増の 15 億 1,300 万円、資産運用支出は第２号基本金組入れ計画の廃止に伴う有価証券への振替 80 億円、本館建設工事費の令和７年度支払に充当する有価証券の購入 50 億 1,700 万円などにより、前年度比 126 億 6,400 万円増の 139 億 9,600 万円となった。

（単位：千円）

収入の部	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
学生生徒等納付金収入	3,354,585	3,448,955	3,273,855	3,205,255	3,143,983
手数料収入	32,303	28,363	30,120	26,288	27,995
寄付金収入	82,524	65,921	98,091	96,194	85,908
補助金収入	451,132	478,498	524,117	626,138	516,526
資産売却収入	919,365	1,952,690	357,451	732,232	5,329,506
付随事業・収益事業収入	510,373	500,914	530,367	417,593	371,625
医療収入	2,013,107	1,833,901	2,425,577	2,425,051	2,336,650
受取利息・配当金収入	632,595	591,839	556,376	534,288	512,638
雑収入	191,277	277,939	241,720	190,514	167,385
借入金等収入	3,400,000	0	2,300,000	0	1,500,000
前受金収入	518,713	446,363	455,546	460,598	554,884
その他の収入	3,242,161	4,372,549	4,454,016	2,763,240	10,492,861
資金収入調整勘定	△ 1,014,098	△ 1,081,654	△ 1,024,703	△ 978,330	△ 913,696
前年度繰越支払資金	1,334,720	773,590	1,405,326	1,320,274	1,203,838
収入の部合計	15,668,757	13,689,868	15,627,859	11,819,335	25,330,103

支出の部	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
人件費支出	4,365,378	4,441,026	4,375,793	4,308,655	4,438,164
教育研究経費支出	1,656,440	2,738,149	1,956,038	2,134,677	2,209,237
管理経費支出	361,143	438,903	425,203	540,898	440,579
借入金等利息支出	12,025	20,087	18,521	22,733	19,779
借入金等返済支出	0	340,020	715,020	945,024	897,522
施設関係支出	3,833,751	782,489	2,605,774	681,463	1,512,680
設備関係支出	193,745	1,631,690	172,691	369,911	122,205
資産運用支出	4,501,953	1,852,400	4,133,700	1,332,232	13,996,357
その他の支出	435,827	507,406	492,797	642,378	374,773
資金支出調整勘定	△ 465,095	△ 467,628	△ 587,952	△ 362,474	△ 433,431
翌年度繰越支払資金	773,590	1,405,326	1,320,274	1,203,838	1,752,238
支出の部合計	15,668,757	13,689,868	15,627,859	11,819,335	25,330,103

（２）活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

令和５年度決算における施設整備等活動資金収支差額は、第２号基本金組入れ計画の廃止に伴い、引当特定資産 80 億円を取崩したことなどにより前年度比 74 億 2,500 万円増の 74 億 400 万円、その他の活動資金収支差額は第２号基本金組入れ計画の廃止に伴う有価証券への振替 80 億円、本館建設工事費の令和７年度支払に充当する有価証券の購入 50 億 1,700 万円などにより前年度比 67 億 3,600 万円減の△65 億 4,000 万円となった。

（単位：千円）

科　目		令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
教育活動による資金収支						
	教育活動資金収入計	6,607,434	6,600,307	7,059,844	6,789,281	6,632,751
	教育活動資金支出計	6,382,962	7,588,482	6,756,961	6,984,230	7,087,649
	差引	224,472	△ 988,175	302,883	△ 194,949	△ 454,898
	調整勘定等	△ 47,913	△ 117,375	62,620	△ 96,532	138,973
	教育活動資金収支差額	176,559	△ 1,105,550	365,503	△ 291,481	△ 315,925

科　目	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	1,325,151	2,588,772	875,844	1,742,475	8,955,896
施設整備等活動資金支出計	5,327,346	2,914,178	3,595,744	1,651,374	1,634,885
差引	△ 4,002,195	△ 325,406	△ 2,719,900	91,101	7,321,011
調整勘定等	46,994	△ 39,871	46,987	△ 111,940	83,277
施設整備等活動資金収支差額	△ 3,955,201	△ 365,277	△ 2,672,913	△ 20,839	7,404,288
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 3,778,642	△ 1,470,827	△ 2,307,410	△ 312,320	7,088,363
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	6,439,741	3,882,626	6,293,420	1,910,676	8,395,454
その他の活動資金支出計	3,221,328	1,780,130	4,070,495	1,714,540	14,935,988
差引	3,218,413	2,102,496	2,222,925	196,136	△ 6,540,534
調整勘定等	△ 901	67	△ 567	△ 252	571
その他の活動資金収支差額	3,217,512	2,102,563	2,222,358	195,884	△ 6,539,963
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 561,130	631,736	△ 85,052	△ 116,436	548,400
前年度繰越支払資金	1,334,720	773,590	1,405,326	1,320,274	1,203,838
翌年度繰越支払資金	773,590	1,405,326	1,320,274	1,203,838	1,752,238

（３）財務比率の経年比較

比率名	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
教育活動資金収支差額比率	2.7%	-16.7%	5.2%	-4.3%	-4.8%

３）事業活動収支計算書関係

（１）事業活動収支計算書の状況と経年比較

令和５年度決算における主な収入では、資産売却差額が本館建設工事費の令和７年度の支払に充当する有価証券の売却により３億6,700万円となった。一方、主な支出では、資産処分差額が体育館解体撤去等に伴う除却損により、前年度比１億1,200万円増の２億5,600万円となった。

（単位：千円）

科　目		令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	3,354,585	3,448,955	3,273,855	3,205,255	3,143,983
	手数料	32,303	28,363	30,120	26,288	27,995
	寄付金	92,553	82,653	120,946	99,458	100,930
	経常費等補助金	427,211	448,773	466,154	446,044	515,446
	付随事業収入	510,373	500,914	530,367	417,593	371,625
	医療収入	2,013,107	1,833,901	2,425,577	2,425,051	2,336,650
	雑収入	199,100	293,875	244,055	196,430	162,575
	教育活動収入計	6,629,232	6,637,434	7,091,074	6,816,119	6,659,204
	事業活動支出の部					
	人件費	4,530,894	4,450,366	4,396,192	4,368,170	4,478,667
	教育研究経費	2,247,591	3,542,611	2,945,657	3,184,925	3,245,351
	管理経費	403,470	462,660	497,287	637,735	549,311
	徴収不能額等	840	92	4,334	6,911	2,177
	教育活動支出計	7,182,795	8,455,729	7,843,470	8,197,741	8,275,506
	教育活動収支差額	△ 553,563	△ 1,818,295	△ 752,396	△ 1,381,622	△ 1,616,302
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	632,595	591,839	556,376	534,288	512,638
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	632,595	591,839	556,376	534,288	512,638
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	12,025	20,087	18,521	22,733	19,779
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	12,025	20,087	18,521	22,733	19,779
	教育活動外収支差額	620,570	571,752	537,855	511,555	492,859
経常収支差額		67,007	△ 1,246,543	△ 214,541	△ 870,067	△ 1,123,443
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	0	139	1	0	367,243
	その他の特別収入	53,728	51,797	74,793	247,987	29,100
	特別収入計	53,728	51,936	74,794	247,987	396,343
	事業活動支出の部					
	資産処分差額	21,395	408,134	20,055	143,984	256,185
	その他の特別支出	0	29,596	74	1	330
	特別支出計	21,395	437,730	20,129	143,985	256,515
	特別収支差額	32,333	△ 385,794	54,665	104,002	139,828
基本金組入前当年度収支差額		99,340	△ 1,632,337	△ 159,876	△ 766,065	△ 983,615
基本金組入額合計		△ 498,340	△ 84,826	△ 990,967	△ 1,794,016	△ 843,820
当年度収支差額		△ 399,000	△ 1,717,163	△ 1,150,843	△ 2,560,081	△ 1,827,435
前年度繰越収支差額		△ 824,022	△ 1,210,245	197,596	△ 952,577	△ 3,249,460
基本金取崩額		12,777	3,125,004	670	263,198	8,750,731
翌年度繰越収支差額		△ 1,210,245	197,596	△ 952,577	△ 3,249,460	3,673,836

（参考）

事業活動収入計	7,315,555	7,281,209	7,722,244	7,598,394	7,568,185
事業活動支出計	7,216,215	8,913,546	7,882,120	8,364,459	8,551,800

（２）財務比率の経年比較

比率名	令和元年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
人件費比率	62.4%	61.6%	57.5%	59.4%	62.4%
教育研究経費比率	31.0%	49.0%	38.5%	43.3%	45.3%
管理経費比率	5.6%	6.4%	6.5%	8.7%	7.7%
事業活動収支差額比率	1.4%	-22.4%	-2.1%	-10.1%	-13.0%
学生生徒等納付金比率	46.2%	47.7%	42.8%	43.6%	43.8%
経常収支差額比率	0.9%	-17.2%	-2.8%	-11.8%	-15.7%

２．その他

１）有価証券の状況

有価証券の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

種　類	当年度（令和6年3月31日）		
	貸借対照表計上額	時　価	差　額
債券	40,902,928,400	40,266,546,000	△ 636,382,400
株式	0	0	0
投資信託	0	0	0
貸付信託	0	0	0
その他	0	0	0
合　計	40,902,928,400	40,266,546,000	△ 636,382,400
時価のない有価証券	0		
有価証券合計	40,902,928,400		

２）借入金の状況

借入金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

借入先	期末残高	利　率	返済期限
日本私立学校振興・共済事業団	1,875,000,000	0.4100%	令和10年9月15日
西日本シティ銀行	2,068,255,000	0.2400%	令和12年3月31日
西日本シティ銀行	1,859,159,000	0.3000%	令和14年3月31日
西日本シティ銀行	1,500,000,000	0.4900%	令和16年3月31日
合　計	7,302,414,000		

３）学校債の状況

なし

４）寄付金の状況

寄付金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

科　目	金　額
特別寄付金	85,616,276
一般寄付金	291,415
合　計	85,907,691

５）補助金の状況

補助金の状況は以下のとおりである。

（単位:円）

科　目	金　額
私立大学等経常費補助金	329,203,000
授業料等減免費補助金	48,452,900
学術研究振興資金	1,400,000
臨床研修費等補助金	36,145,000
県その他補助金	101,325,092
合　計	516,525,992

６）収益事業の状況

なし

７）関連当事者との取引の状況

（１）関連当事者

記載すべき関連当事者との取引はない。

（２）出資会社

なし

８）学校法人間財務取引

なし

３．経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

令和５年度決算における主な収入では、学生生徒等納付金は福岡歯科大学及び福岡医療短期大学の入学定員未充足による在籍学生数の減により、前年度比 6,100 万円減の 31 億 4,400 万円、医療収入は令和５年４月から本院での診療を開始した口腔医療センターの減収などにより、前年度比 8,800 万円減の 23 億 3,700 万円、資産売却差額は本館建設工事費の令和７年度の支払に充当する有価証券の売却により 3 億 6,700 万円となり、経常収入（教育活動収入・教育活動外収入）は 71 億 7,200 万円となった。一方、主な支出では、人件費は昇給等による病院職員人件費の増などにより、前年度比 1 億 1,000 万円増の 44 億 7,900 万円、資産処分差額は体育館解体撤去等に伴う除却損により、前年度比 1 億 1,200 万円増の 2 億 5,600 万円となり、経常支出（教育活動支出・教育活動外支出）は 82 億 9,500 万円となった。以上の結果、学校法人の経常的な収支バランス（教育活動収支・教育活動外収支）を示す経常収支差額は△11 億 2,300 万円となった。

主な財務比率では、人件費比率 62.4%、教育研究経費比率 45.3%、管理経費比率 7.7%、経常収支差額比率△15.7%となった。

また、令和５年度の総資産は 664 億 200 万円となり、教育研究の充実を目的として第 3 号基本金引当特定資産に 236 億 8,200 万円、減価償却資産の取替資金として減価償却引当特定資産に 71 億 1,000 万円など各種引当特定資産の積立を行っており、財政基盤の強化を図っている。

今後、収入面では、福岡歯科大学及び福岡医療短期大学における入学定員充足による安定した学生納付金の確保、補助金・寄付金等の外部資金の積極的な導入、医科歯科総合病院における医療収入の増収など財源の確保に努める。一方、支出面では、人件費については、人事計画に基づく人員配置及び人事考課制度の活用等により適正化を図り、その他の経常的な経費については、予算の効果的な執行及び不要不急の支出の抑制を図る。

本学園は、教育研究環境の向上及び将来的な施設、設備等の更新に伴う財源確保のため、一層の財政状況の改善を図り、永続的な維持・発展に向けて、安定した財政基盤の確立を目指す。

別表１　2023年研究業績（欧文）一覧

〔福岡歯科大学〕

1.総説（review含む）

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	CO2 laser for esthetic healing of injuries and surgical wounds with small parenchymal defects in oral soft tissues.	Daigo Y, Daigo E, Fukuoka H, Fukuoka N, Idogaki J, Taniguchi Y, Tsutsumi T, Ishikawa M, Takahashi K	Diseases	11	4	172	2023	10.3390/diseases11040172
2	Biology and management of deep-seated atypical lipomatous tumor of the extremities.	Nishio J, Nakayama S, Chijiiwa Y, Aoki M	Anticancer Research	43	10	4295-4301	2023	10.21873/anticanres.16624
3	Spindle cell lipoma and pleomorphic lipoma: An update and review.	Ohshima Y, Nishio J, Nakayama S, Koga K, Aoki M, Yamamoto T	Cancer Diagnosis & Prognosis	3	3	282-290	2023	10.21873/cdp.10213
4	An update on clinicopathological, imaging, and genetic features of angioleiomyoma.	Koga M, Nishio J, Koga T, Koga K, Nakayama S, Yamamoto T	Cancer Diagnosis & Prognosis	3	2	145-150	2023	10.21873/cdp.10193
5	Effects of maternal nutrition on oral health in offspring.	Kawakubo T, Hayashi Y, Hirata M	Current Oral Health Reports	10	3	69-74	2023	10.1007/s40496-023-00338-z

2.原著

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Current status and factors of periodontal disease among Japanese high school students: a cross-sectional study.	Haresaku S, Chishaki A, Hatakeyama J, Yoshinaga Y, Yoshizumi J, Yamamoto M, Matsuzaki E, Hamanaka I, TsutsumI T, Taniguchi Y, Ohgi K, Yoneda M	BDJ Open	9	1	29	2023	10.1038/s41405-023-00149-5
2	A case report of root canal retreatment of a four-rooted maxillary second molar.	Matsumoto K, Imai Y, Hirose H, Matsuzaki E	Journal of Dental Sciences	18	1	461-463	2023	10.1016/j.jds.2022.08.033
3	Three-dimensional analysis of the shaping characteristics and ability of a novel Ni-Ti rotary file.	Matsumoto K, Hirose H, Isshi K, Fujimasa S, Kanemaru S, Yanagi T, Matsuzaki E	Operative Dentistry, Endodontology and Periodontology	3	1	137-143	2023	10.11471/odep.2023-016
4	Differentiation of murine enamel organ-derived tissue stem cells into cementoblasts after transplantation.	Takase M, Maruo N, Okamura K, Tsuchimochi N, Yamato H, Ohgi K, Nagai A, Kaneko T, Yoshinaga Y, Sakagami R	Operative Dentistry, Endodontology and Periodontolog	3	1	12-21	2023	10.11471/odep.2023-002
5	Effect of particle sizes and contents of surface pre-reacted glass Ionomer filler on mechanical properties of auto-polymerizing resin.	Kaga N, Morita S, Yamaguchi Y, Matsuura T	Dentistry Journal	11	3	72	2023	10.3390/dj11030072
6	Design of palatal and lingual augmentation prostheses by using an intraoral scanner for a patient after a glossectomy: A clinical report.	Yoshida S, Yamaguchi K, Taniguchi Y, Isshi K, Kido H, Tohara H	The Journal of Prosthetic Dentistry	130	2	267-270	2023	10.1016/j.prosdent.2021.12.028
7	Etoposide-induced cellular senescence suppresses autophagy in human keratinocytes.	Yoshida M, Takahashi S, Tsuchimochi N, Ishii H, Naito T, Ohno J	Journal of Hard Tissue Biology	32	3	183-190	2023	10.2485/jhtb.32.183
8	Circadian rhythm of PERIOD2::LUCIFERASE expression in the trigeminal ganglion of mice.	Shirakawa Y, N Ohno S, A Yamagata K, Kuramoto E, Oda Y, J Nakamura T, Nakamura W, Sugimura M	Frontiers in Neuroscience	17	-	1142785	2023	10.3389/fnins.2023.1142785
9	Association between hyporesponsiveness to erythropoiesis-stimulating agents and risk of brain hemorrhage in patients undergoing hemodialysis: The Q-Cohort Study.	Uchida Y, Nakano T, Kitamura H, Taniguchi M, Tsuruya K, Kitazono T	Clinical and Experimental Nephrology	27	1	79-88	2023	10.1007/s10157-022-02278-x
10	Neuroimmune mechanisms and therapies mediating post-ischaemic brain injury and repair.	Shichita T, Ooboshi H, Yoshimura A	Nature Reviews Neuroscience	24	5	299-312	2023	10.1038/s41583-023-00690-0
11	Indoxyl sulfate induces left ventricular hypertrophy via the AhR-FGF23-FGFR4 signaling pathway.	Kishimoto H, Nakano T, Torisu K, Tokumoto M, Uchida Y, Yamada S, Taniguchi M, Kitazono T	Frontiers in Cardiovascular Medicine	10	-	990422	2023	10.3389/fcvm.2023.990422
12	Spermidine from arginine metabolism activates Nrf2 and inhibits kidney fibrosis.	Aihara S, Torisu K, Uchida Y, Imazu N, Nakano T, Kitazono T	Communications Biology	6	1	676	2023	10.1038/s42003-023-05057-w

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
13	Association between Serum C-Reactive Protein Concentrations and Risk of Cancer-Related Mortality in Patients Undergoing Hemodialysis: 10-Year Outcomes of the Q-Cohort Study.	Uchida Y, Nakano T, Hiyamuta H, Kitamura H, Taniguchi M, Ooboshi H, Tsuruya K, Kitazono T	Blood Purification	52	7-8	694-701	2023	10.1159/000530846
14	Arginase 2 promotes cisplatin-induced acute kidney injury by the inflammatory response of macrophages.	Uchida Y, Torisu K, Aihara S, Imazu N, Ooboshi H, Kitazono T, Nakano T	Laboratory Investigation	103	10	100227	2023	10.1016/j.labinv.2023.100227
15	Association between decreases in serum uric acid levels and unfavorable outcomes after ischemic stroke: A multicenter hospital-based observational study.	Nakamura K, Ueki K, Matsuo R, Kiyohara T, Irie F, Wakisaka Y, Ago T, Kamouchi M, Kitazono T, Fukuoka Stroke Registry Investigators	PloS One	18	6	e0287721	2023	10.1371/journal.pone.0287721
16	Decreased estimated glomerular filtration rate and proteinuria and long-term outcomes after ischemic stroke: A longitudinal observational cohort study.	Ueki K, Matsuo R, Kuwashiro T, Irie F, Wakisaka Y, Ago T, Kamouchi M, Kitazono T, Fukuoka Stroke Registry Investigators	Stroke	54	5	1268-1277	2023	10.1161/STROKEAHA.122.040958
17	Incidence and risks of coronary heart disease and heart failure in Japanese patients with type 2 diabetes mellitus: The Fukuoka diabetes registry.	Iwase M, Ohkuma T, Fujii H, Oku Y, Higashi T, Oshiro A, Ide H, Nakamura U, Kitazono T	Diabetes Research and Clinical Practice	201	-	110732	2023	10.1016/j.diabres.2023.110732
18	Cardiovascular risk factor burden and treatment control in patients with chronic kidney disease: A cross-sectional study.	Kitamura H, Tanaka S, Hiyamuta H, Shimamoto S, Tsuruya K, Nakano T, Kitazono T	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis	30	9	1210-1288	2023	10.5551/jat.63891
19	Genome-wide association study of the risk of chronic kidney disease and kidney-related traits in the Japanese population: J-Kidney-Biobank.	Sugawara Y, Hirakawa Y, Nagasu H, Narita A, Katayama A, Wada J, Shimizu M, Wada T, Kitamura H, Nakano T, Yokoi H, Yanagita M, Goto S, Narita I, Koshiba S, Tamiya G, Nangaku M, Yamamoto M, Kashihara N	Journal of Human Genetics	68	2	55-64	2023	10.1038/s10038-022-01094-1
20	Association between prevalence of laxative use and history of bone fractures and cardiovascular diseases in patients with chronic kidney disease: the Fukuoka Kidney disease Registry (FKR) study.	Yamada S, Tanaka S, Arase H, Hiyamuta H, Kitamura H, Tokumoto M, Mitsuiki K, Tsuruya K, Kitazono T, Nakano T	Clinical and Experimental Nephrology	27	2	151-160	2023	10.1007/s10157-022-02289-8
21	Computational fluid-particle dynamics modeling of ultrafine to coarse particles deposition in the human respiratory system, down to the terminal bronchiole.	Dang Khoa N, Li S, Lu Phuong N, Kuga K, Yabuuchi H, Kan-o K, Matsumoto K, Ito K	Computer Methods and Programs in Biomedicine	237	-	107589	2023	10.1016/j.cmpb.2023.107589
22	Effects of treatment with corticosteroids on human rhinovirus-induced asthma exacerbations in pediatric inpatients: a prospective observational study.	Kan-O K, Washio Y, Oki T, Fujimoto T, Ninomiya T, Yoshida M, Fujita M, Nakanishi Y, Matsumoto K	BMC Pulmonary Medicine	23	1	487	2023	10.1186/s12890-023-02798-6
23	Risks of dementia in a general Japanese older population with preserved ratio impaired spirometry: The Hisayama Study.	Kawatoko K, Washio Y, Ohara T, Fukuyama S, Honda T, Hata J, Nakazawa T, Kan-o K, Inoue H, Matsumoto K, Nakao T, Kitazono T, Okamoto I, Ninomiya T	Journal of Epidemiology	-	-	-	2023	10.2188/jea.je20230207
24	Association between oral health and swallowing function in the elderly.	Yamano T, Nishi K, Omori F, Wada K, Naito T	Clinical Interventions in Aging	18	-	343-351	2023	10.2147/cia.s400032
25	Inhibitory effect of pyra-metho-carnil on cancer spheroid growth through decrease in glycolysis-associated molecules.	Yoshida K, Nishi K, Ishikura S, Matsumoto T, Nakabayashi K, Yazaki R, Ohshima T, Suenaga M, Shirasawa S, Tsunoda T	Anticancer Research	43	8	3717-3726	2023	10.21873/anticanres.16556
26	Effects of bolus types and swallowing maneuvers on laryngeal elevation: Analysis of healthy young adult men and healthy older men.	Omori F, Fujiu M, Wada K, Yamano T	Dysphagia	-	-	-	2023	10.1007/s00455-023-10638-2
27	Effects of food properties and aging on external auditory canal movements associated with mastication.	Yamano T, Nishi K, Omori F, Kajii T	Cureus	15	11	e49475	2023	10.7759/cureus.49475

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
28	Genome-wide association study of age-related macular degeneration reveals 2 new loci implying shared genetic components with central serous chorioretinopathy.	Akiyama M, Miyake M, Momozawa Y, Arakawa S, Maruyama M, Endo M, Iwasaki Y, Ishigaki K, Matoba N, Okada Y, Yasuda M, Oshima Y, Yoshida S, Nakao S, Morino K, Mori Y, Kido A, Kato A, Yasukawa T, Obata R, Nagai Y, Takahashi K, Fujisawa K, Miki A, Nakamura M, Honda S, Ushida H, Yasuma T, Nishiguchi K, Mori R, Tanaka K, Wakatsuki Y, Yamashiro K, Kadonosono K, Terao C, Ishibashi T, Tsujikawa A, Sonoda K, Kubo M, Kamatani Y	Ophthalmology	130	4	361-372	2023	10.1016/j.ophtha.2022.10.034
29	Shank3a/b isoforms regulate the susceptibility to seizures and thalamocortical development in the early postnatal period of mice.	Okuzono S, Fujii F, Matsushita Y, Setoyama D, Shinmyo Y, Taira R, Yonemoto K, Akamine S, Motomura Y, Sanefuji M, Sakurai T, Kawasaki H, Han K, A Kato T, Torisu H, Kang D, Nakabeppu Y, Sakai Y, Ohga S	Neuroscience Research	193	-	13-19	2023	10.1016/j.neures.2023.03.001
30	Long-lasting pain and somatosensory disturbances in children with myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease.	Ichimiya Y, Fee Chong P, Sonoda Y, Tocan V, Watanabe M, Torisu H, Kira R, Takahashi T, Kira J, Isobe N, Sakai Y, Ohga S	European Journal of Pediatrics	182	7	3175-3185	2023	10.1007/s00431-023-04989-z
31	Heterogeneity and mitochondrial vulnerability configurate the divergent immunoreactivity of human induced microglia-like cells.	Yonemoto K, Fujii F, Taira R, Ohgidani M, Eguchi K, Okuzono S, Ichimiya Y, Sonoda Y, Fee Chong P, Goto H, Kanemasa H, Motomura Y, Ishimura M, Koga Y, Tsujimura K, Hashiguchi T, Torisu H, Kira R, A Kato T, Sakai Y, Ohga S	Clinical Immunology	255	-	109756	2023	10.1016/j.clim.2023.109756
32	Biology and management of high-grade myxofibrosarcoma: State of the art and future perspectives.	Nishio J, Nakayama S	Diagnostics	13	19	3022	2023	10.3390/diagnostics13193022
33	GLUT-1 expression is helpful to distinguish myxofibrosarcoma from nodular fasciitis.	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, Koga K, Nabeshima K, Yamamoto T	Histology and Histopathology	38	1	47-51	2023	10.14670/HH-18-490
34	Oral-malodor measurement and intention to quit smoking in men: A before-after study.	Yatabe N, Hanioka T, Suzuki N, Shimazu A, Naito M	Tobacco Induced Diseases	21	-	95	2023	10.18332/tid/168365
35	Determining the sequence dependency of self-assembly of elastin-like peptides using short peptide analogues with shuffled repetitive sequences.	Tatsubo D, Suyama K, Sakamoto N, Tomohara K, Taniguchi S, Maeda I, Nose T	Biochemistry	62	17	2559-2570	2023	10.1021/acs.biochem.3c00146
36	Suitability of high-molecular-weight tissue-derived elastin polypeptides and their particles as cosmetic biomaterials.	Sakai T, Sodemoto N, Inoue A, Taniguchi S, Maeda I, Hikama T	Journal of Peptide Science	29	6	e3472	2023	10.1002/psc.3472
37	Mobility gene expression differences among wild-type, Mmp20 null and Mmp20 over-expresser mice plus visualization of 3D mouse ameloblast directional movement.	Shin M, Matsushima A, Nagao J, Tanaka Y, Harada H, Okabe K, D Bartlett J	Scientific Reports	13	1	18829	2023	10.1038/s41598-023-44627-0
38	Dispensable role of aire in CD11c+ conventional dendritic cells for antigen presentation and shaping the transcriptome.	Miyazawa R, Nagao J, Arita K, Matsumoto M, Morimoto J, Yoshida M, Oya T, Tsuneyama K, Yoshida H, Tanaka Y, Matsumoto M	ImmunoHorizons	7	1	140-158	2023	10.4049/immunohorizons.2200103
39	Efficient lipidomic approach for the discovery of lipid ligands for immune receptors by combining LC-HRMS/MS analysis with fractionation and reporter cell assay.	Tomiyasu N, Takahashi M, Toyonaga K, Yamasaki S, Bamba T, Izumi Y	Analytical and Bioanalytical Chemistry	-	-	-	2023	10.1007/s00216-023-05111-w
40	Functional evaluation of mineral trioxide aggregate cement with choline dihydrogen phosphate.	Tabira K, Kajimoto N, Minamisawa H, Sato T, Maruta M, Oka K, Kataoka T, Yoshioka T, Hayakawa S, Tsuru K	Dental Materials Journal	42	4	485-492	2023	10.4012/dmj.2022-283

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
41	Physical properties and antimicrobial release ability of gentamicin-loaded apatite cement/α-TCP composites: An in vitro study.	Sasaki K, Ninomiya Y, Takechi M, Tsuru K, Ishikawa K, Shigeishi H, Ohta K, Aikawa T	Materials	16	3	995	2023	10.3390/ma16030995
42	Improvement of luminescent properties of GdPO4 doped with optimal europium concentration by Co-doping with lanthanum.	Budrevičius D, Kajimoto N, Pakalniškis A, Tsuru K, Kareiva A, Skaudžius R	Ceramics International	49	2	2373-2379	2023	10.1016/j.ceramint.2022.09.209
43	Id4 modulates salivary gland homeostasis and its expression is downregulated in IgG4-related disease via miR-486-5p.	Hayashi Y, Kimura S, Yano E, Yoshimoto S, Saeki A, Yasukochi A, Hatakeyama Y, Moriyama M, Nakamura S, Jimi E, Kawakubo T	Biochimica et Biophysica Acta - Molecular Cell Research	1870	2	119404	2023	10.1016/j.bbamcr.2022.119404
44	Humanized mouse models with endogenously developed human natural killer cells for in vivo immunogenicity testing of HLA class I-edited iPSC-derived cells.	Flahou C, Morishima T, Higashi N, Hayashi Y, Xu H, Wang B, Zhang C, Ninomiya A, Qiu W, Yuzuriha A, Suzuki D, Nakamura S, Manz M, Kaneko S, Hotta A, Takizawa H, Eto K, Sugimoto N	Biochemical and Biophysical Research Communications	662	-	76-83	2023	10.1016/j.bbrc.2023.04.067
45	Mecom mutation related to radioulnar synostosis with amegakaryocytic thrombocytopenia reduces HSPCs in mice.	Nagai K, Niihori T, Muto A, Hayashi Y, Abe T, Igarashi K, Aoki Y	Blood Advances	7	18	5409-5420	2023	10.1182/bloodadvances.2022008462
46	Establishment of a novel protocol for formalin-fixed paraffin-embedded organoids and spheroids.	Yoshimoto S, Taguchi M, Sumi S, Oka K, Okamura K	Biology Open	12	5	bio059882	2023	10.1242/bio.059882
47	IL-6 plays a critical role in stromal fibroblast RANKL induction and consequent osteoclastogenesis in ameloblastoma progression.	Yoshimoto S, Morita H, Okamura K, Hiraki A, Hashimoto S	Laboratory Investigation	103	1	100023	2023	10.1016/j.labinv.2022.100023
48	Conditional knockout of transient receptor potential melastatin 7 in the enamel epithelium: Effects on enamel formation.	Shin M, Matsushima A, Kajiya H, Okamoto F, Ogata K, Oka K, Ohshima H, D Bartlett J, Okabe K	European Journal of Oral Sciences	131	2	e12920	2023	10.1111/eos.12920
49	Relationship Between Oral Health, Quality of Life, and Comprehensive Health Literacy in Community-Dwelling Older Adults.	Matsuo R, Fujita K, Yakushiji K, Gondo T, Tanaka R, Nagai A	Research and Theory for Nursing Practice	-	-	-	2023	10.1891/RTNP-2022-0135
50	Lineage of drug discovery research on fluorinated pyrimidines: chronicle of the achievements accomplished by Professor Setsuro Fujii.	Maehara Y, Oki E, Ota M, Harimoto N, Ando K, Nakanishi R, Kawazoe T, Fujimoto Y, Nonaka K, Kitao H, Iimori M, Makino K, Takechi T, Sagara T, Miyadera K, Matsuoka K, Tsukihara H, Kataoka Y, Wakasa T, Ochiiwa H, Kamahori Y, Tokunaga E, Saeki H, Yoshizumi T, Kakeji Y, Shirabe K, Baba H, Shimada M	International Journal of Clinical Oncology	28	5	613-624	2023	10.1007/s10147-023-02326-w
51	Structural and mutational analyses of decarboxylated osteocalcin provide insight into its adiponectin - inducing activity.	Mizuguchi M, Yokoyama T, Otani T, Kuribara S, Nabeshima Y, Obita T, Hirata M, Kawano K	FEBS Letters	597	11	1479-1488	2023	10.1002/1873-3468.14618
52	Mutational spectrum of TP53 gene correlates with nivolumab treatment efficacy in advanced gastric cancer (TP53MUT study).	Ando K, Nakamura Y, Kitao H, Shimokawa M, Kotani D, Bando H, Nishina T, Yamada T, Yuki S, Narita Y, Hara H, Ohta T, Esaki T, Hamamoto Y, Kato K, Yamamoto Y, Minashi K, Ohtsubo K, Izawa N, Kawakami H, Kato T, Satoh T, Okano N, Tsuji A, Yamazaki K, Yoshino T, Maehara Y, Oki E	British Journal of Cancer	129	6	1032-1039	2023	10.1038/s41416-023-02378-9
53	Temporal and spatial dynamics of immune cells in spontaneous liver transplant tolerance.	Que W, Ueta H, Hu X, Morita M, Fujino M, Ueda D, Tokuda N, Huang W, Guo W, Zhong L, Li X	iScience	26	9	107691	2023	10.1016/j.isci.2023.107691

3.症例報告

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Case report long-term orthodontic and dental implant prosthodontic treatment for tooth-formation anomalies secondary to chemotherapy in a paediatric patient with a history of malignancy.	Hojo S, Tamaoki S, Inada H, Suita S	Clinical and Investigative Orthodontics	82	1	39-48	2023	10.1080/27705781.2023.2167366
2	Dental treatment under general anesthesia with nasal intubation in a patient with selective immunoglobulin a deficiency.	Sakuma Y, Ogawa M, Nakagawa C, Momota K, Kaji E, Matsumura K, Morinaga S, Nogami K, Ikeda M	Anesthesia Progress	70	3	140-141	2023	10.2344/anpr-70-02-13
3	A potential novel treatment for chronic cough in long COVID patients: Clearance of epipharyngeal residual SARS-CoV-2 spike RNA by Epipharyngeal abrasive therapy.	Nishi K, Yoshimoto S, Tanaka T, Kimura S, Shinchi Y, Yamano T	Cureus	15	1	e33421	2023	10.7759/cureus.33421
4	Superficial angiomyxoma of the wrist: Case report and literature review.	Chijiiwa Y, Nagano T, Nishio J	In Vivo	37	1	503-505	2023	10.21873/invivo.13107
5	A patient with pleuroparenchymal fibroelastosis carrying a novel fibrillin-2 gene variant.	Hidaka K, Inai T, Kosho T, Yamaguchi T, Kawabata Y, Inai Y, Imamura S, Sanada S	Respiratory Medicine Case Reports	44	-	101870	2023	10.1016/j.rmcr.2023.101870

〔福岡看護大学〕

1.原著

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Awareness, attitudes, and perceptions of oral healthcare among first year dental, medical, and nursing students.	Lay T, Nurchasanah F, Wanda D, Indah Wardhany I, Agustin R, Haresaku S, Septorini Wimardhani Y, Mandasari M	Dentistry Journal	11	7	169	2023	10.3390/dj11070169
2	Guidelines for the management of respiratory infectious diseases in children in Japan 2022.	Ishiwada N, Shinjoh M, Kusama Y, Arakawa H, Ohishi T, Saitoh A, Suzuki A, Tsutsumi H, Nishi J, Hoshino T, Mitsuda T, Miyairi I, Iwamoto-Kinoshita N, Kobayashi H, Satoh K, Shimizu A, Takeshita K, Tanaka T, Tamura D, Tokunaga O, Tomita K, Nagasawa K, Funaki T, Furuichi M, Miyata I, Yaginuma M, Yamaguchi Y, Yamamoto S, Uehara S, Kurosaki T, Okada K, Ouchi K	The Pediatric Infectious Disease Journal	42	10	e369-e376	2023	10.1097/INF.0000000000004041
3	Acute and postacute clinical characteristics of coronavirus disease 2019 in children in Japan.	Katsuta T, Aizawa Y, Shoji K, Shimizu N, Okada K, Nakano T, Kamiya H, Amo K, Ishiwada N, Iwata S, Oshiro M, Okabe N, Korematsu S, Suga S, Tsugawa T, Nishimura N, Hishiki H, Fujioka M, Hosoya M, Mizuno Y, Miyairi I, Miyazaki C, Morishima T, Yoshikawa T, Wada T, Ouchi K, Moriuchi H, Tanaka-Taya K, Saitoh A	The Pediatric Infectious Disease Journal	42	3	240-246	2023	10.1097/INF.0000000000003792
4	Harmony between Tooth and Skin Colors: Based on the Impressions of Male Model Faces among Young Males	Kuroki M, Egashira R, Katayama T, Komatsu M, Aoki H, Shoyama S	Journal of Esthetic Dentistry	36	1	19-31	2023	10.60256/sikasinbi.36.1_19
5	Current status and future prospects for oral care education in bachelor of nursing curriculums: A Japanese cross-sectional study.	Haresaku S, Miyoshi M, Kubota K, Obuse M, Aoki H, Nakashima F, Muramatsu M, Maeda H, Uchida S, Miyazono M, Iino H, Naito T	Japan Journal of Nursing Science	20	2	e12521	2023	10.1111/jjns.12521
6	A survey of oral assessment and healthcare education at nursing schools in Japan.	Haresaku S, Kubota K, Miyoshi M, Obuse M, Aoki H, Nakashima F, Muramatsu M, Maeda H, Uchida S, Miyazono M, Iino H, Naito T	International Dental Journal	73	6	804-811	2023	10.1016/j.identj.2022.09.006
7	Differences in color impressions between nurses and patients : A survey of psychiatric wards.	Hara Y, Lee E, Nakashima F, Shoyama S	Journal of the Japan Research Association for Textile End-Use	64	4	257-265	2023	10.11419/senshoshi.64.4_257
8	Relationship between oral health, quality of life, and comprehensive health literacy in community-dwelling older adults.	Matsuo R, Fujita K, Yakushiji K, Gondo T, Tanaka R, Nagai A	Research and Theory for Nursing Practice	37	3	251-270	2023	10.1891/RTNP-2022-0135
9	Growth-related changes in the influence of obesity on signs suggesting sleep-disordered breathing and sleepiness in young individuals with down syndrome.	Sawatari H, Chishaki A, Rahmawati A, Ando S	Journal of Intellectual Disability Research	67	11	1150-1160	2023	10.1111/jir.13079
10	Current status and factors of periodontal disease among Japanese high school students: A cross-sectional study.	Haresaku S, Chishaki A, Hatakeyama J, Yoshinaga Y, Yoshizumi J, Yamamoto M, Matsuzaki E, Hamanaka I, Tsutsumi T, Taniguchi Y, Ohgi K, Yoneda M	BDJ Open	9	1	29	2023	10.1038/s41405-023-00149-5
11	Reliability, validity, and responsiveness of the Japanese version of the EORTC QLQ-ELD14 in evaluating the health-related quality of life of elderly patients with cancer.	Kinoshita Y, Izukura R, Kishimoto J, Kanaoka M, Fujita H, Ando K, Nagai S, Akiyoshi S, Tagawa T, Kubo M, Inokuchi J, Ohuchida K, Oki E, Tanaka K, Eto M, Yoshizumi T, Nakamura M, Chishaki A	Journal of Cancer Research and Clinical Oncology	149	8	4899-4914	2023	10.1007/s00432-022-04414-2
12	High-echoic line tracing of transthoracic echocardiography accurately assesses right ventricular enlargement in adult patients with atrial septal defect.	Sato T, Sakamoto I, ichi Hiasa K, Kawakubo M, Ishikita A, Umemoto S, Jeong Kang M, Sawatari H, Chishaki A, Shigeto H, Tsutsui H	The International Journal of Cardiovascular Imaging	39	1	87-95	2023	10.1007/s10554-022-02712-x

2.研究報告

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	A comparison of the fine particulate protection rate of face masks reused after washing.	Okayama K, Arakawa M	Journal of International Nursing Research	2	2	e2022-0036	2023	10.53044/jinr.2022-0036

〔福岡医療短期大学〕

1.原著

※ 電子ジャーナルの場合、巻・号・ページは「-」で記載

No.	題名	著者名	発行元	巻	号	ページ	発行年	DOI
1	Long-term outcomes of infantile sacrococcygeal teratoma: Results from a multi-institutional retrospective observational study in Japan.	Fumino S, Hirohata Y, Takayama S, Tajiri T, Usui N, Taguchi T,Japan SCT Study Group Collaborators	Journal of Pediatric Surgery	-	-	-	2023	10.1016/j.jpedsurg.2023.11.016
2	Safety, efficacy and pharmacokinetics of palivizumab in off-label neonates, infants, and young children at risk for serious respiratory syncytial virus infection: A multicenter phase II clinical trial.	Mori M, Yoshizaki K, Watabe S, Ishige M, Hinoki A, Kondo T, Taguchi T, Hasegawa H, Hatata T, Tanuma N, Kirino K, Hirakawa A, Naruto T, Imai M, Koike R, Hosoi K, Kusuda S	The Lancet Regional Health. Western Pacific	39	-	100847	2023	10.1016/j.lanwpc.2023.100847
3	Cutting-edge regenerative therapy for hirschsprung disease and its allied disorders.	Yoshimaru K, Matsuura T, Uchida Y, Sonoda S, Maeda S, Kajihara K, Kawano Y, Shirai T, Toriigahara Y, Kalim AS,Zhang XY, Takahashi Y, Kawakubo N, Nagata K, Yamaza H, Yamaza T, Taguchi T, Tajiri T	Surgery Today	-	-	-	2023	10.1007/s00595-023-02741-6
4	Diagnostic challenges of hypoganglionosis based on immunohistochemical method.	Alatas FS, Masumoto K, Nagata K,　Pudjiadi AH , Kadim M, Taguchi T, Tajiri T	Translational Pediatrics	12	6	1161-1169	2023	10.21037/tp-22-592
5	Harmony between tooth and skin colors: Based on the impressions of male model faces among young males.	Kuroki M, Egashira R, Katayama T, Komatsu M, Aoki H, Shoyama S	Japanese Journal of Dental Esthetics	36	1	19-31	2023	10.60256/sikasinbi.36.1_19
6	Intra - oral gingival massage activates human cerebral prefrontal cortex and enhances cognitive performance.	Rikimaru T, Okura Y	Oral Science International	20	3	229-238	2023	10.1002/osi2.1175

別表２　令和５年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡歯科大学】

（単位：千円）

区分 / 種目			令和５年度						前年度比較増減(R5-R4)						令和４年度					
			申請件数	内定件数	新規採択率	内定額 直接経費	内定額 間接経費	内定額 計	申請件数	内定件数	採択増減率	内定額 直接経費	内定額 間接経費	内定額 計	申請件数	内定件数	新規採択率	内定額 直接経費	内定額 間接経費	内定額 計
日本学術振興会	新学術領域研究	新規	0	0	0%	0	0	0	-1	0	0%	0	0	0	1	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	基盤研究(S)	新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	基盤研究(A)	新規	1	1	100%	13,300	3,990	17,290	1	1	100%	13,300	3,990	17,290	0	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	-1	-1		-9,800	-2,940	-12,740	1	1		9,800	2,940	12,740
	基盤研究(B)	新規	3	1	33%	5,100	1,530	6,630	-2	0	13%	-1,200	-360	-1,560	5	1	20%	6,300	1,890	8,190
		継続	3	3		11,500	3,450	14,950	1	1		5,100	1,530	6,630	2	2		6,400	1,920	8,320
	基盤研究(C)	新規	73	9	12%	12,400	3,720	16,120	13	-1	-4%	1,900	570	2,470	60	10	17%	10,500	3,150	13,650
		継続	28	28		25,700	7,710	33,410	-2	-2		-150	-45	-195	30	30		25,850	7,755	33,605
	挑戦的研究（開拓）	新規	2	0	0%	0	0	0	1	0	0%	0	0	0	1	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	挑戦的研究（萌芽）	新規	3	0	0%	0	0	0	-4	0	0%	0	0	0	7	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	若手研究	新規	35	9	26%	16,600	4,980	21,580	0	5	14%	11,500	3,450	14,950	35	4	11%	5,100	1,530	6,630
		継続	7	7		7,200	2,160	9,360	-11	-11		-11,500	-3,450	-14,950	18	18		18,700	5,610	24,310
	研究活動スタート支援	新規	11	3	27%	3,200	960	4,160	-1	1	11%	1,000	300	1,300	12	2	17%	2,200	660	2,860
		継続	2	2		2,200	660	2,860	1	1		1,000	300	1,300	1	1		1,200	360	1,560
小計		新規	128	23	18%	50,600	15,180	65,780	7	6	4%	26,500	7,950	34,450	121	17	14%	24,100	7,230	31,330
		継続	40	40		46,600	13,980	60,580	-12	-12		-15,350	-4,605	-19,955	52	52		61,950	18,585	80,535
		総合計	168	63		97,200	29,160	126,360	-5	-6		11,150	3,345	14,495	173	69		86,050	25,815	111,865
厚生労働省等	厚労科研	新規	1	1	100%	19,500	5,850	25,350	1	1	100%	19,500	5,850	25,350	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0				0	-1	-1		-20,000	-6,000	-26,000	1	1		20,000	6,000	26,000
	小計	新規	1	1	100%	19,500	5,850	25,350	1	1	100%	19,500	5,850	25,350	0	0	0	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	-1	-1		-20,000	-6,000	-26,000	1	1		20,000	6,000	26,000
		厚労省等合計	1	1		19,500	5,850	25,350	0	0		-500	-150	-650	1	1		20,000	6,000	26,000
合計		新規	129	24	19%	70,100	21,030	91,130	8	7	5%	46,000	13,800	59,800	121	17	14%	24,100	7,230	31,330
		継続	40	40		46,600	13,980	60,580	-13	-13		-35,350	-10,605	-45,955	53	53		81,950	24,585	106,535
		総合計	169	64		116,700	35,010	151,710	-5	-6		10,650	3,195	13,845	174	70		106,050	31,815	137,865

別表３　令和５年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡看護大学】

（単位：千円）

区分	種目		令和５年度						前年度比較増減(R5-R4)						令和４年度					
			申請件数	内定件数	新規採択率	内定額			申請件数	内定件数	採択増減率	内定額			申請件数	内定件数	新規採択率	内定額		
						直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計				直接経費	間接経費	計
日本学術振興会	新学術領域研究	新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	基盤研究(S)	新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	基盤研究(A)	新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	基盤研究(B)	新規	0	0	0%	0	0	0	-1	-1	-100%	-6,200	-1,860	-8,060	1	1	100%	6,200	1,860	8,060
		継続	2	2		4,400	1,320	5,720	1	1		1,200	360	1,560	1	1		3,200	960	4,160
	基盤研究(C)	新規	19	1	5%	1,000	300	1,300	6	-2	-18%	-2,300	-690	-2,990	13	3	23%	3,300	990	4,290
		継続	11	11		10,000	3,000	13,000	-1	-1		2,800	840	3,640	12	12		7,200	2,160	9,360
	挑戦的研究（開拓）	新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	挑戦的研究（萌芽）	新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
		継続	1	1		1,900	570	2,470	0	0		600	180	780	1	1		1,300	390	1,690
	若手研究	新規	2	1	50%	1,900	570	2,470	2	1	50%	1,900	570	2,470	0	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	-3	-3		-2,200	-660	-2,860	3	3		2,200	660	2,860
	研究活動スタート支援	新規	1	0	0%	0	0	0	-2	0	0%	0	0	0	3	0	0%	0	0	0
		継続	0	0		0	0	0	-1	-1		-600	-180	-780	1	1		600	180	780
合計		新規	22	2	9%	2,900	870	3,770	5	-2	-14%	-6,600	-1,980	-8,580	17	4	24%	9,500	2,850	12,350
		継続	14	14		16,300	4,890	21,190	-4	-4		1,800	540	2,340	18	18		14,500	4,350	18,850
		総合計	36	16		19,200	5,760	24,960	1	-6		-4,800	-1,440	-6,240	35	22		24,000	7,200	31,200

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

別表４　令和５年度 科学研究費助成事業決定状況

【福岡医療短期大学】

（単位：千円）

区分 / 種目		令和５年度 申請件数	令和５年度 内定件数	令和５年度 新規採択率	令和５年度 内定額 直接経費	令和５年度 内定額 間接経費	令和５年度 内定額 計	前年度比較増減(R5-R4) 申請件数	前年度比較増減(R5-R4) 内定件数	前年度比較増減(R5-R4) 採択増減率	前年度比較増減(R5-R4) 内定額 直接経費	前年度比較増減(R5-R4) 内定額 間接経費	前年度比較増減(R5-R4) 内定額 計	令和４年度 申請件数	令和４年度 内定件数	令和４年度 新規採択率	令和４年度 内定額 直接経費	令和４年度 内定額 間接経費	令和４年度 内定額 計
日本学術振興会	新学術領域研究 新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
	新学術領域研究 継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	基盤研究(S) 新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
	基盤研究(S) 継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	基盤研究(A) 新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
	基盤研究(A) 継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	基盤研究(B) 新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
	基盤研究(B) 継続	1	1		2,500	750	3,250	0	0		0	0	0	1	1		2,500	750	3,250
	基盤研究(C) 新規	8	2	25%	2,200	660	2,860	0	0	0%	-700	-210	-910	8	2	25%	2,900	870	3,770
	基盤研究(C) 継続	2	2		1,900	570	2,470	2	2		1,900	570	2,470	0	0		0	0	0
	挑戦的研究（開拓） 新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
	挑戦的研究（開拓） 継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	挑戦的研究（萌芽） 新規	4	0	0%	0	0	0	-3	-1	-14%	-2,000	-600	-2,600	7	1	14%	2,000	600	2,600
	挑戦的研究（萌芽） 継続	1	1		1,700	510	2,210	1	1		1,700	510	2,210	0	0		0	0	0
	若手研究 新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
	若手研究 継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
	研究活動スタート支援 新規	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0	0	0	0%	0	0	0
	研究活動スタート支援 継続	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0	0	0		0	0	0
小計	新規	12	2	17%	2,200	660	2,860	-3	-1	-3%	-2,700	-810	-3,510	15	3	20%	4,900	1,470	6,370
	継続	4	4		6,100	1,830	7,930	3	3		3,600	1,080	4,680	1	1	0	2,500	750	3,250
	学振合計	16	6		8,300	2,490	10,790	0	2		900	270	1,170	16	4		7,400	2,220	9,620
厚生労働省等	厚労科研 新規	1	1	100%	27,100	7,660	34,760	1	1	100%	27,100	7,660	34,760	0	0	0	0	0	0
	厚労科研 継続	0	0				0	-1	-1		-27,500	-8,250	-35,750	1	1		27,500	8,250	35,750
	小計 新規	1	1	100%	27,100	7,660	34,760	1	1	100%	27,100	7,660	34,760	0	0	0	0	0	0
	小計 継続	0	0		0	0	0	-1	-1		-27,500	-8,250	-35,750	1	1		27,500	8,250	35,750
	厚労省等合計	1	1		27,100	7,660	34,760	0	0		-400	-590	-990	1	1		27,500	8,250	35,750
合計	新規	13	3	23%	29,300	8,320	37,620	-2	0	3%	24,400	6,850	31,250	15	3	20%	4,900	1,470	6,370
	継続	4	4		6,100	1,830	7,930	2	2		-23,900	-7,170	-31,070	2	2		30,000	9,000	39,000
	総合計	17	7		35,400	10,150	45,550	0	2		500	-320	180	17	5		34,900	10,470	45,370

※研究代表者として採択となっている課題のみ記載

別表5　令和5年度海外研修派遣一覧表

第3種海外研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
口腔顎顔面・外科学講座	教授	池邉　哲郎	学会参加	大韓民国（ソウル）	自：R05.04.21	至：R05.04.22
	客員教授	中川　美和	学会発表	アメリカ（サンディエゴ）	自：R05.06.02	至：R05.06.08
口腔顎顔面・外科学講座	教授	池邉　哲郎	学会参加	カナダ（バンクーバー）	自：R05.06.09	至：R05.06.12
成長発達歯学講座	教授	岡　暁子	学会発表	オランダ（マーストリヒト）	自：R05.06.12	至：R05.06.19
成長発達歯学講座	助教	熊谷　徹弥	学会発表	オランダ（マーストリヒト）	自：R05.06.12	至：R05.06.19
成長発達歯学講座	大学院生	田口　雅英	学会発表	オランダ（マーストリヒト）	自：R05.06.12	至：R05.06.19
成長発達歯学講座	大学院生	隅　聡子	学会発表	オランダ（マーストリヒト）	自：R05.06.12	至：R05.06.19
歯科医療工学講座	助教	南澤　宏瑚	学会参加	フランス（モンペリエ）	自：R05.06.18	至：R05.06.25
生体構造学講座	講師	吉本　尚平	学会講演	台湾（台北）	自：R05.08.16	至：R05.08.22
総合歯科学講座	教授	内藤　徹	講義	韓国（ソウル）	自：R05.08.24	至：R05.08.26
生体構造学講座	講師	林　慶和	研究打合せ	台湾（台北）	自：R05.09.25	至：R05.09.29
歯科医療工学講座	講師	佐藤　平	学会発表	スイス（ゾロトゥルン）	自：R05.10.15	至：R05.10.22
口腔医学研究センター	客員教授	平田　雅人	研究打合せ	台湾（台北）	自：R05.10.22	至：R05.10.25
総合歯科学講座	教授	内藤　徹	学会発表	イタリア（フィレンツェ）	自：R06.03.09	至：R06.03.17
口腔医学研究センター	客員教授	平田　雅人	学会発表	シンガポール（シンガポール）	自：R06.03.23	至：R06.03.28
生体構造学講座	講師	林　慶和	学会発表	シンガポール（シンガポール）	自：R06.03.24	至：R06.03.31

㊟第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

第2種研修派遣実績一覧表

福岡歯科大学

所属	職名	氏名	目的	派遣先	自	至
咬合修復学講座	大学院生	新藤　美湖	研究留学	岩手医科大学	自：R05.04.01	至：R06.03.31

㊟第3種海外研修派遣：1カ月以内視察、調査、研究、学会参加等

別表６　　令和５年度　外部研修等受講一覧表

所属	受講日	研　修　等　名	場 所	参加者
企画課	12/8	コミュニケーションスキル研修	福岡市	森川　弥生
総務課	7/12	メンタルヘルス対策セミナー	オンライン	田島　大寛
	8/30	給与実務研修会	東京都	田島　大寛
	8/30	給与実務研修会	東京都	安武　宏高
	9/8	ビジネスマナー基礎研修	福岡市	松尾　佳起
	9/8	ビジネスマナー基礎研修	福岡市	岩崎　凌大
	9/22	共済業務担当者向け説明会	福岡市	岩崎　凌大
	9/27-9/28	障害者職業生活相談員資格認定講習	福岡市	田島　大寛
	9/29	時間外労働の上限規制に関する説明会	オンライン	田島　大寛
	11/6	育児・介護休業法等説明会＆ハラスメント防止研修会	オンライン	田島　大寛
	11/7	公正採用選考人権啓発推進員研修	福岡市	石橋　慶憲
	1/25	電離放射線業務の健康管理における説明会	オンライン	田島　大寛
	2/7	新たな化学物質規制に係る説明会	オンライン	田島　大寛
	3/1	障害者雇用納付金制度事務説明会	福岡市	田島　大寛
	3/1	障害者雇用納付金制度事務説明会	福岡市	谷　賢太朗
財務課	8/31-9/1	日本私立大学協会　初任者研修会	福岡市	林　泰成
教育研究支援課	8/31-9/1	日本私立大学協会　初任者研修会	福岡市	安藤　駿
	11/20	機関別認証評価にかかる説明会	オンライン	安藤　駿
	11/20	機関別認証評価にかかる説明会	オンライン	和才　広輝
	2/16	全国公正研究推進会議	東京都	安藤　駿
	2/19	学部・研究科レベルでの質保証活動における学部等の執行部及び全学的な組織の役割	オンライン	安藤　駿
	2/19	学部・研究科レベルでの質保証活動における学部等の執行部及び全学的な組織の役割	オンライン	和才　広輝
	2/26	大学評価研究所　公開研究会	オンライン	和才　広輝
	2/28	科学研究費助成事業（科研費）に関する説明会	オンライン	安藤　駿
学務課	8/31-9/1	日本私立大学協会　初任者研修会	福岡市	髙松　裕一
	9/6-9/7	私立大学歯学部学生生活協議会	東京都	髙松　裕一
	11/1	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	赤間　尚希
	11/1	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	松尾　優太
	11/1	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	浪治　研哉
	11/1	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	成松　彩加
	11/28	福岡地域留学生担当者共同研修会	オンライン	成松　彩加
	2/6	日本学生支援機構　奨学業務連絡協議会	福岡市	堂園　佳央

所属	受講日	研　修　等　名	場 所	参加者
情報図書館課	6/9	情報館短期集中セミナー	オンライン	木村　弥生
	7/13	図書館等公衆送信サービス説明会	オンライン	木村　弥生
	7/21	JUSTICE電子資料契約実務研修会	オンライン	外山　硫璃子
	9/8	九経連サイバーセキュリティセミナー	オンライン	平野　太一
	9/15	Microsoft365 使いこなし講座	オンライン	平野　太一
	9/22	JMLA通常総会分科会	オンライン	外山　硫璃子
	11/16	九州地区医学図書館員セミナー	オンライン	外山　硫璃子
	2/5	Power Platform Onboarding Center	オンライン	平野　太一
看護大学事務課	8/31-9/1	NPO法人学生文化創造　学生支援相談に関する基礎研修	オンライン	古賀　稔也
	9/6-9/8	心の問題と成長支援ワークショップ	東京都	古賀　稔也
	11/1	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	鬼束　泰裕
	11/1	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	大村　さゆり
	11/21	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	宮里　駿土
	11/21	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	徳安　由香利
	11/21	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	古賀　稔也
	11/21	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	赤坂　竜之介
	11/21	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	箱田　智紀
	2/6	日本学生支援機構　奨学業務連絡協議会	福岡市	鬼束　泰裕
病院事務課	9/8	ビジネスマナー基礎研修	福岡市	永田　舞
	12/8	コミュニケーションスキル研修	福岡市	松本　夏海
	12/15	化学物質管理者講習	福岡市	多賀谷　陽子
	2/15	診療情報管理研究研修会	福岡市	田村　優実
	3/1	九州地区国立大学病院医事業務勉強会	沖縄県	田村　優実
	3/28	医療事務研究会	福岡市	佐藤　朱理
教育支援・教学IR室事務室	11/1	大学・高校実践ソリューションセミナー	オンライン	真島　晃子
	12/12-12/15	大学ICT推進協議会	愛知県	赤間　尚希
	3/8	ALCS 学修行動比較調査2023 教学比較IRコモンズ内部報告会	東京都	真島　晃子

別表７　　令和５年度　教職員研修実施結果

＜令和５年度研修基本方針＞

教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため、教職員が必要な知識及び技能を習得させ、その能力及び資質を向上させることを目的とする。
その他、本基本方針を達成するため、都度必要な研修を行うことがある。

○階層別研修

研修名		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	採用時研修	新規採用事務職員	本学の概要、大学教職員の基礎知識、各課の紹介等	6月、10月、2月実施	12名
			フォローアップ研修 初年度の反省と、２年目に向けて	12月25日実施	4名
2	管理職研修	課長・課長補佐	管理職対象のワークライフマネジメント研修	7月4日実施 （ビデオ受講）	17名 （1名）
3	若手・中堅職員研修	係長・主任・事務職員	若手・中堅職員対象のワークライフマネジメント研修	9月28日実施 （ビデオ受講）	73名 （42名）

○専門別研修

題　材		対象者	研修内容	実施日	受講者数
1	修学支援	事務職員	合理的配慮の提供義務化について	6月15日実施 （ビデオ受講）	69名 （30名）
2	ハラスメント	管理職以外の教職員 ※嘱託職員も含む	活気ある職場づくりのために	8月2日実施 （ビデオ受講）	485名 （379名）
3	ガバナンス	教職員	第四次中期構想と財務状況について	8月29日実施 （ビデオ受講）	572名 （408名）
4	コンプライアンス	研究に携わる教職員 ※嘱託職員も含む	コンプライアンス教育講習会	オンライン受講	420名
5	ハラスメント	管理職教職員	ハラスメントのない職場づくりのために	11月27日実施	51名
6	人事考課	課長・課長補佐	人事考課のための考課者研修	12月20日実施	17名
7	年　金	希望者のみ	年金説明会	2月22日実施	13名

別表８　　令和５年度　西部地区五大学連携懇話会研修参加者

受講日	研　　修　　名	主　催	場所	参加者
9/8	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡市	松尾　佳起
9/8	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡市	岩崎　凌大
9/8	ビジネスマナー基礎研修	中村学園大学	福岡市	永田　舞
12/8	コミュニケーションスキル研修	九州大学	福岡市	森川　弥生
12/8	コミュニケーションスキル研修	九州大学	福岡市	松本　夏海